

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の2001年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国庫（4,150,000円）県費（2,075,000円）の補助金の交付を受け、平成13年4月1日から平成14年3月29日まで、整理作業は平成13年4月1日から平成15年3月28日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
教育次長	池本敏雄	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医(平成8年5月1日 ～平成14年8月31日)・早川由利子(平成14年9月17日～)
生涯学習課長	金子忠弘		
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 本書の執筆は縄文時代の遺物を今井堯、第Ⅸ章（2）を土本医、それ以外を鍋島が行なった。
 挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美 土器復元：中田藤子 旧石器実測：土本医
 土器実測・拓影：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、丹治つや子、福島雅子、山口妙子
 トレース：小林登喜江 表作成：植田勢津子、福島雅子 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、
 須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、福島雅子 遺構写真：鍋島直久、高崎直成、土本医、坪田幹男
 遺物写真：小室 登（巻頭遺物写真）、鍋島直久、青山奈保美
 遺物洗浄・注記・石器実測の一部を（株）東京航業研究所に委託した。また、整理作業全般において日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田明、浅野晴樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、上田寛、内田賢司、越前谷理、大久保淳、岡田賢治、
 加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、小室登、桜井信枝、
 笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、丹治剛、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、堀善之、
 松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治、
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 浅野賢太郎、新井和枝、飯塚泰子、伊藤弘一、伊藤大地、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、大塚香、
 笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤裕幸、篠崎忠三、嶋田侑一郎、
 鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高貝しづ子、田畑真基、戸澤竹二、中嶋末子、新本伸枝、野岡由紀子、
 林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、松村さとみ、三村美代子、村端和樹、横井治水、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、小野太樹、小野寺佳代、加藤淳子、蕪木友美、鎌倉聖悟、
 小林登喜江、斎藤卓、椎名久美子、嶋田泰生、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、野口裕子、
 日比谷和美、福島雅子、前橋佑紀、丸山香織、本橋克則、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4、1:3 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じである。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム） 焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文 撚糸文
 - (5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2001年度埋蔵文化財調査一覧表

No	遺跡・地点名	申請地	調査面積 (m ²)	開発面積 (m ²)	原因	調査期間	調査措置
1	亀居遺跡第54地点	鶴ヶ岡2-28-17	56	148	個人住宅	13.4.24~13.4.27	試掘
2	亀居遺跡第55地点	鶴ヶ岡2-28-16	45	148	個人住宅	13.11.14~13.11.16	試掘
3	江川東遺跡第6地点	東久保1-168-7	15	71	個人住宅	13.7.17	試掘
4	亀久保堀遺跡第29地点	東久保29街区1.2.7.8画地	161	1,769	店舗	13.4.17 13.4.18~13.4.20	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
5	東久保遺跡第41地点	東久保4街区6.7画地	37	112	個人住宅	13.5.28~13.5.29	試掘
6	東久保遺跡第42地点	東久保19街区10画地	160	864	駐車場	13.4.18~13.4.21	試掘
7	東久保遺跡第43地点	東久保15街区14.15画地	37	142	個人住宅	13.5.22~13.5.25	試掘
8	東久保遺跡第44地点	東久保19街区9・11・12画地	186	757	倉庫	13.5.10~13.6.29	試掘
9	東久保遺跡第45地点	亀久保258-21	31.5	100	個人住宅	13.6.1	試掘
10	東久保遺跡第46地点	東久保17街区3・4画地	49	135	個人住宅	13.6.4~13.6.6	試掘
11	東久保遺跡第47地点	東久保31街区6・13画地	321	1,203	店舗	13.10.11~13.10.26	試掘
12	東久保遺跡第48地点	東久保18街区9・10画地	178	518	分譲住宅	13.12.12~13.12.25	試掘
13	東久保遺跡第49地点	東久保13街区7画地	1	100	分譲住宅	14.2.12~14.2.13	試掘
14	東久保西遺跡第11地点	東久保12街区5・9画地	79	1,445	駐車場	13.6.11~13.6.12	試掘
15	東久保西遺跡第12地点	東久保11街区9・13画地	387	1,074	店舗	13.6.25~13.7.2	試掘
16	東久保西遺跡第13地点	東久保14街区11画地	27.2	275	個人住宅	13.10.13~13.10.26	試掘
17	東久保西遺跡第14地点	東久保11街区10画地	60	237	店舗	14.1.31~14.2.4	試掘
18	東久保南遺跡第24地点	東久保49街区6画地	420	1,051	共同住宅	13.4.2~14.4.8	試掘
19	東久保南遺跡第25地点	東久保49街区2・3画地	596.6	1,388	中古車展示場	13.9.26~13.10.12	試掘
20	東久保南遺跡第26地点	東久保63街区3画地	40.5	208	店舗	13.10.30~13.11.1	試掘
21	西ノ原遺跡第120地点	大井・苗間24街区4画地	466	1,120	共同住宅	13.5.7~13.5.15	試掘
22	西ノ原遺跡第121地点	旭1-15	764	803	個人住宅	14.2.7~14.3.8	教育委員会で本調査
23	西ノ原遺跡第122地点	大井・苗間14街区8画地	252	593	共同住宅	14.3.9~14.3.19 14.6.21~14.7.22	試掘調査後教育 委員会で本調査
24	中沢前遺跡第23地点	大井・苗間30街区1画地	85	261	個人住宅	13.5.11~13.5.15	試掘調査後教育 委員会で本調査
25	神明後遺跡第15地点	苗間字神明後293-15	50	163	個人住宅	13.4.11 13.4.12~13.4.13	試掘調査後教育 委員会で本調査
26	神明後遺跡第16地点	苗間字神明後309-14	189	165	個人住宅	13.7.23~13.7.24 13.7.25~13.9.3	試掘調査後教育 委員会で本調査
27	神明後遺跡第17地点	苗間字神明後369-1	7.5	581	個人住宅	14.3.28	試掘
28	苗間東久保遺跡第22地点	苗間645-11	6	99	個人住宅	13.10.25	試掘
29	浄禅寺跡遺跡第20地点	苗間字神明後351-1	17.6	223	倉庫	13.10.26~13.10.29	試掘
30	浄禅寺跡遺跡第21地点	苗間字東久保591-3,592-7	12	182	個人住宅	13.11.19~13.11.20	試掘
31	本村遺跡第96地点	苗間101街区5画地	99	301	個人住宅	13.7.10~13.7.13	試掘
32	本村遺跡第97地点	大井・苗間82街区11画地	40.5	132	個人住宅	13.7.11~13.7.12	試掘
33	本村遺跡第98地点	大井・苗間94街区1画地	17	144	学童保育所	13.12.17~13.12.19	試掘
34	東台遺跡第34地点	大井字東台624-2	608	1,414	共同住宅	14.3.12~14.3.25 14.3.26~14.5.8	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
35	東台遺跡第35地点	大井字東台649-31	7.5	48	個人住宅	13.9.6~13.9.8	試掘
36	東台遺跡第36地点	大井字東台614	136	272	倉庫	13.10.15~13.11.2	試掘
37	東台遺跡第37地点	大井字東台626-12	101	100	個人住宅	13.10.12~13.11.5	教育委員会で本調査
38	東台遺跡第38地点	大井字東台614-3	400	787	駐車場	14.1.28~14.2.15	試掘
合 計			6,145.9	19,133			

Ⅷ 西ノ原遺跡の調査

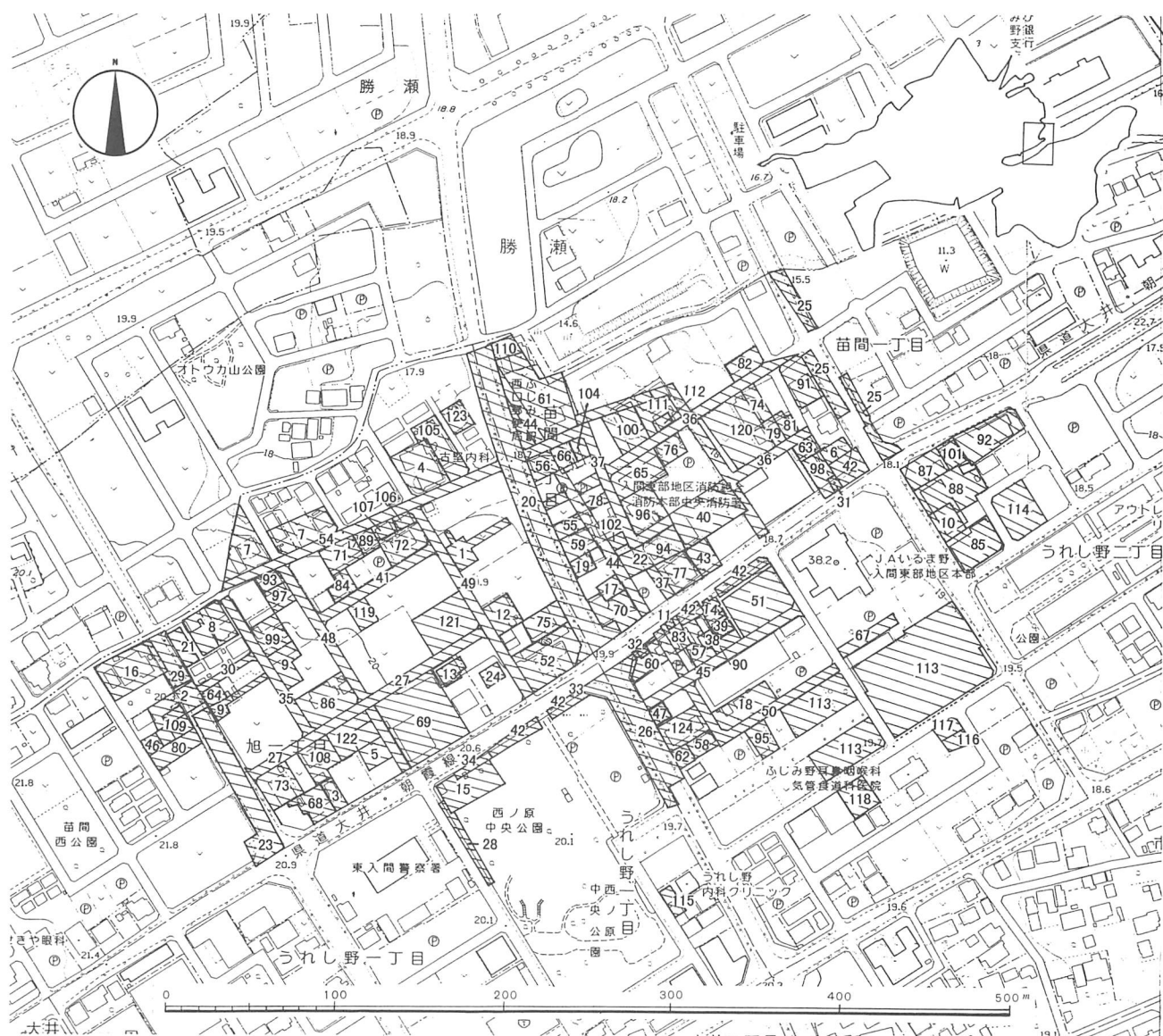
1 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

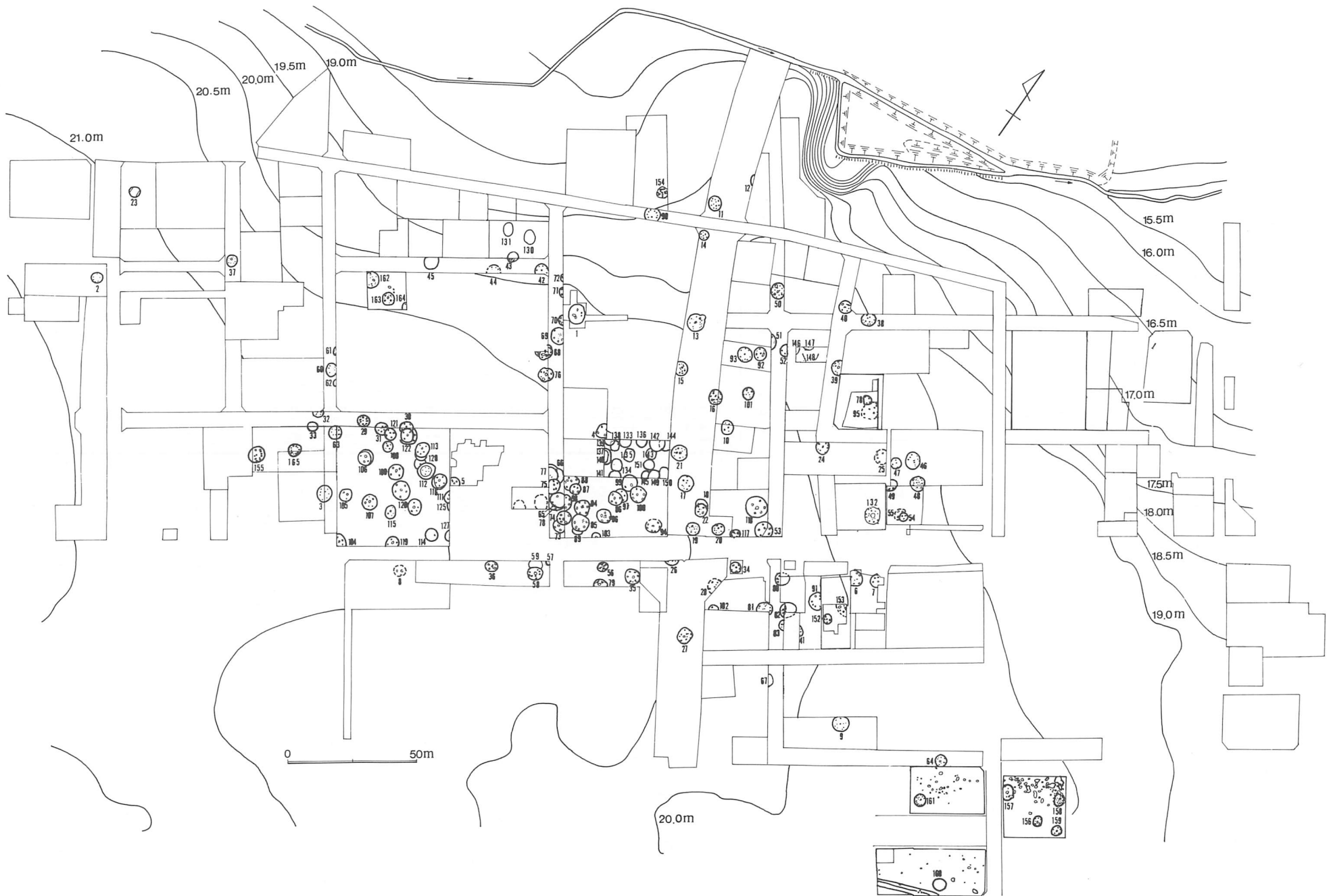
本遺跡の発掘調査率は町内遺跡群では突出している。昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯

であったが、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2003年2月現在で120地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、160軒を超す住居跡が環状集落として形成され町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

2003年2月現在の調査状況によると、縄文時代中期の住居跡が165軒確認されている。



第30図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第31図 西ノ原遺跡縄文時代中期住居配置図 (1/2,000)

2 西ノ原遺跡第120地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2001年3月22日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北東部に位置するため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

調査は5月7日から幅約2mのトレンチ6本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。縄文土器片6点が出土したものの、遺構は確認されなかった。写真撮影・全測図等記録を行なったうえ埋め戻しを行ない、5月15日調査を終了した。

1～3は遺構外出土の縄文土器片である。1は無文中型浅鉢の口縁部で、胎土に白色砂粒・白色軟質物質・ガラス光決粉末を含む。2は撚糸文を地文とする胴上部片で、沈線による連弧文がある。3は櫛状工具による細沈線を地文とし、隆帯貼り付けによる懸垂文がある。他の細片8点は割愛した。

3 西ノ原遺跡第121地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2002年1月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、縄文時代集落が環状に巡る部分に当たる。隣接する道路部分の調査から、住居の存在が確実なため申請者と協議の結果、本調査を実施した。

調査は残土置場の関係から調査区を東西に分けて行った。2月7日から重機による東側調査区の表土除去後、人力による調査を行なった。2月28日から重機による西側調査区の表土除去を開始、継続して人力による調査を3月6日まで行なった。写真撮影・測量等を行ない同月8日、埋め戻しを行ない調査を終了した。調査の結果、縄文時代中期の住居跡2軒、土坑2基、近世以降の溝4本を検出した。

(2) 遺構と遺物

今回の調査区は環状集落のやや内側で、遺構密度の薄い広場部分に近い。これまでの隣接する道路部分の調査から68号住居跡と76号住居跡の2軒の存在が判明しており、その続きを検出した。

①68号住居跡

【位置】遺跡中央部に位置する。隣接する東側道路部分などを平成3年度と平成8年度に調査し、住居の一部を検出している。註1

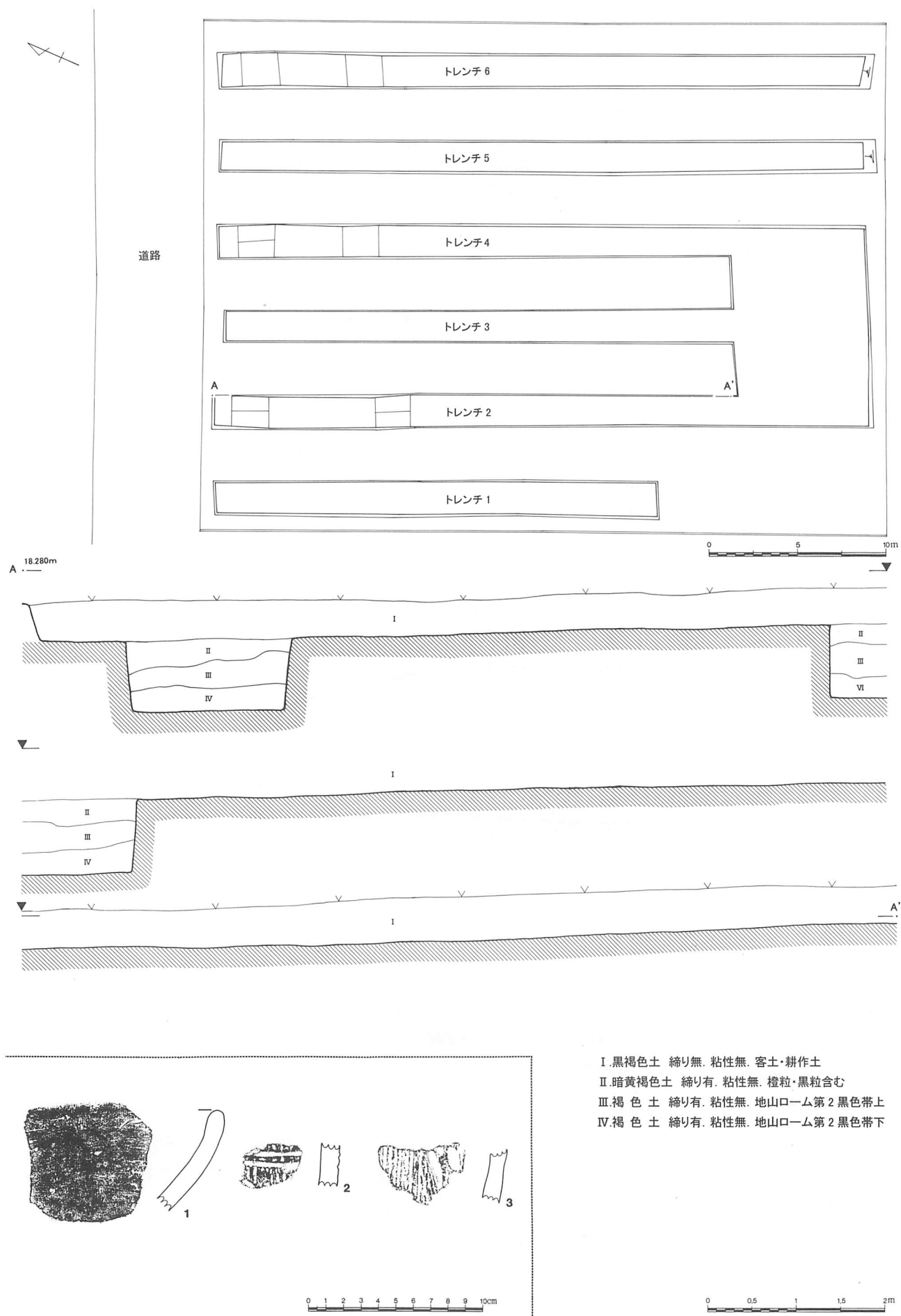
【形状】新たに住居の西側1/4を調査し、過去の調査とあわせると全体の3/4を検出したことになる。全体の形状はほぼ円形に近くなる。規模は南北方向の径(6.25)m、東西方向の径(6.1)mを測る。

【炉】平成8年度調査で地床炉1基を検出しているが、新たに床面の焼けている部分1ヶ所を確認した。床面焼土範囲は住居中央部西よりで、半円形を呈し掘り込みはない。検出部の規模は23×63cmを測る。

【ピット】これまでに13本のピットを検出しているが、新たに14本を検出した。ピット27は掘り込みは浅くピットというより土坑とみられる。住居検出時に確認され、住居に伴うものとみられる。

第8表 西ノ原遺跡68号住居跡ピット一覧表 単位cm

No	形態	確認面径	底 径	深さ	備考
1	円 形	37～42	18～28	31	主柱穴
2	橢円形	38～49	17～22	30	主柱穴
3	橢円形	33～43	16～25	46	主柱穴
4	橢円形	28～50	18～38	23	
5	橢円形	18～28	8～18	16	
6	円 形	28～35	10～12	30	
7	円 形	20～25	8～12	30	
8	円 形	26～35	12～23	36	
9	円 形	30～32	22	15	
10	円 形	22～25	7	21	
11	円 形	18～22	14	21	
12	円 形	15～18	10～12	8	
13	橢円形	45～63	32～35	13	
14	円 形	29～37	13～16	33	
15	円 形	49～55	22～26	75.6	主柱穴
16	円 形	27～32	10～13	22.6	
17	円 形	31～39	17～20	60.5	主柱穴
18	円 形	28～47	11～15	26.8	
19	円 形	27～36	15～20	18.7	
20	円 形	(26)～50	(8)～17	17.3	
21	円 形	(32)～37	13～21	18.6	
22	円 形	31～39	20～27	7.2	
23	円 形	32～36	12～14	34	
24	円 形	29～40	14～17	20.9	
25	円 形	38～45	14～19	23.8	
26	円 形	(28)～30	(8)～20	15.1	
27	橢円形	77～150	53～123	16.1	



第32図 西ノ原遺跡第120地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土土器 (1/3)



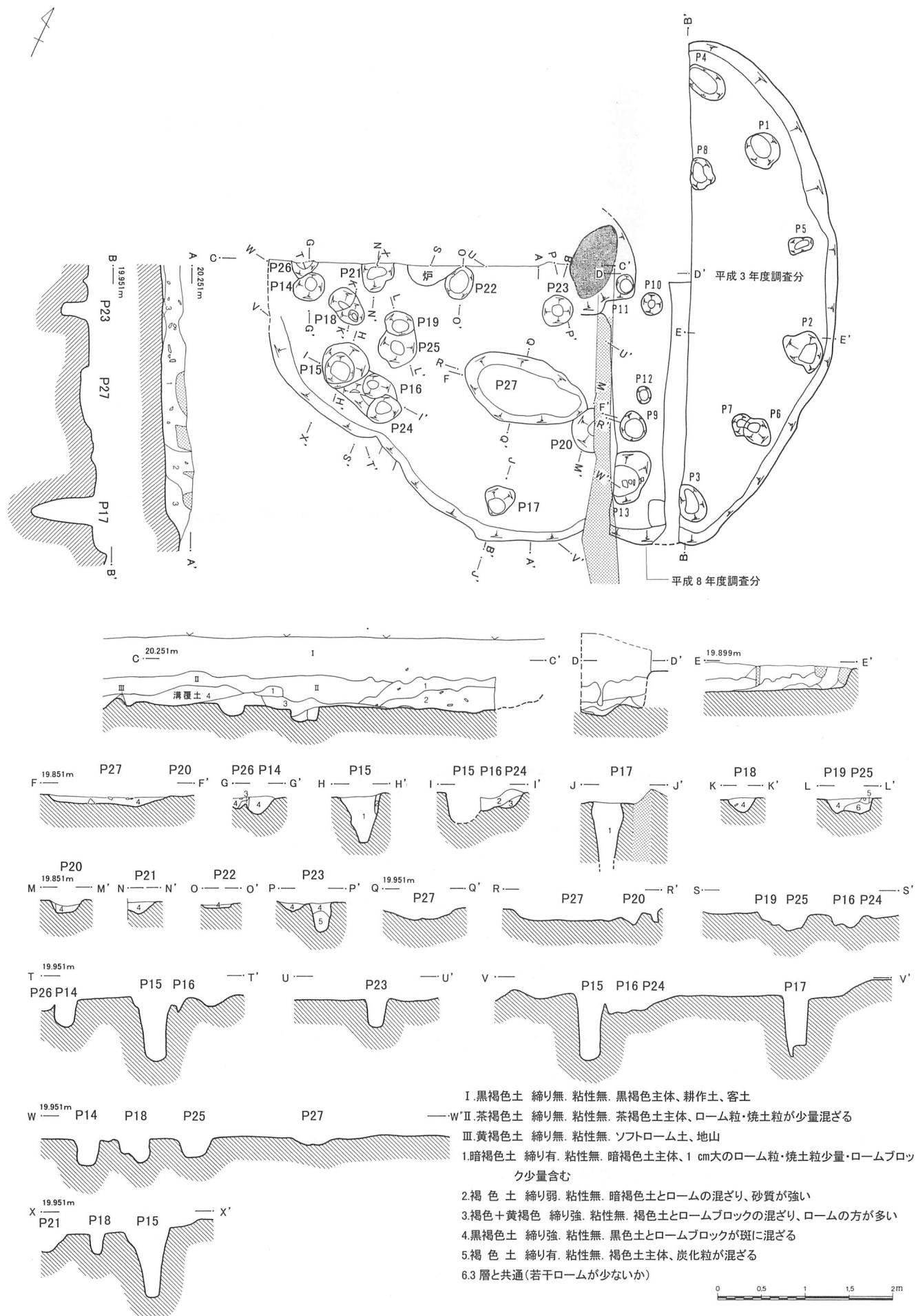
第33図 西ノ原遺跡第121地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)

【遺物出土状況】これまでの調査同様覆土中から多量の土器片や石器が出土した。遺物量は住居跡中心部では床面から覆土層全体に満遍なく多く、住居壁際では少ない。出土遺物のうち大半が加曽利EⅡ式である。

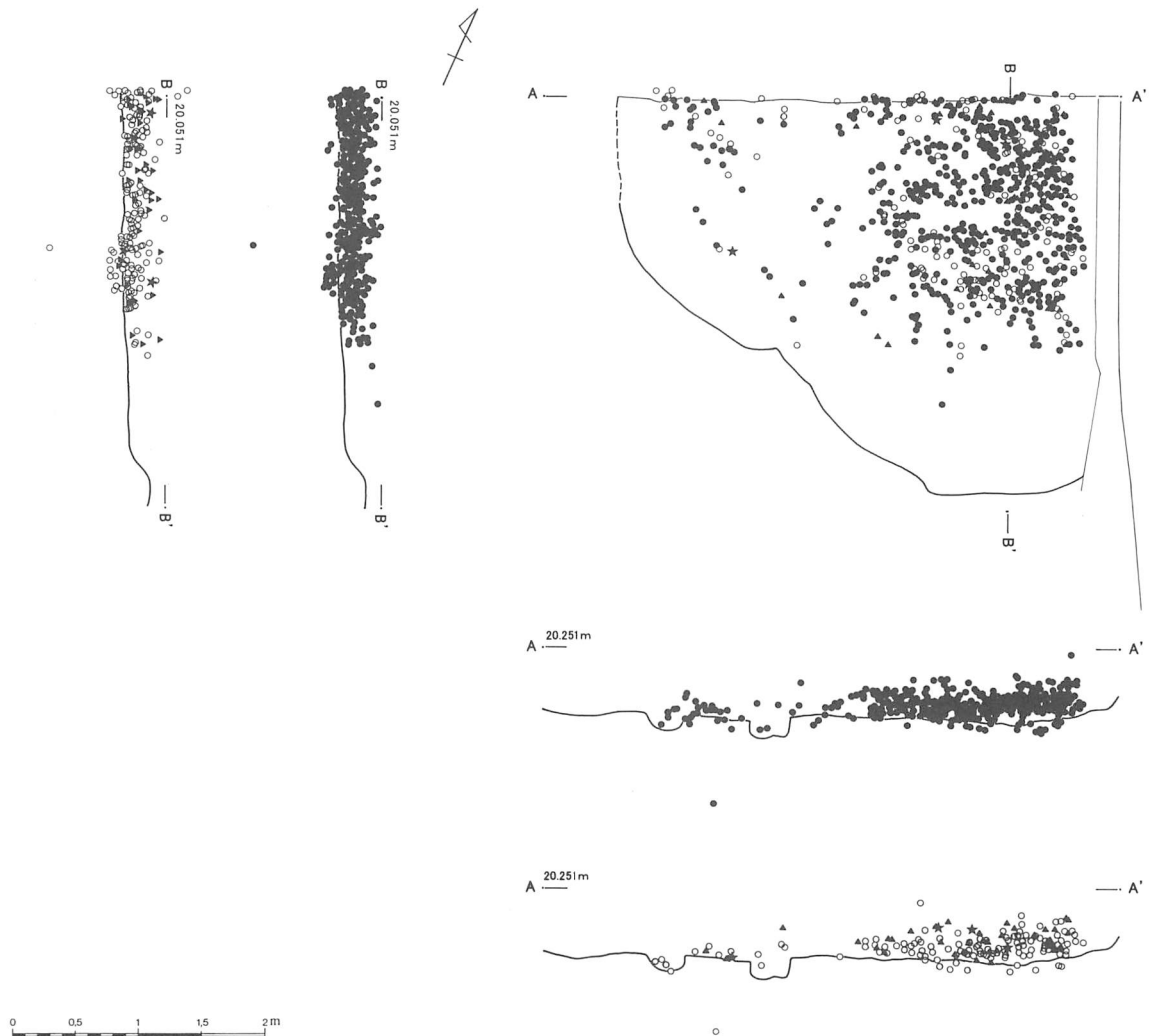
【時期】覆土下層出土土器から加曽利EⅡ式新相。

【出土遺物】1は第49地点出土片と今回出土した破片が接合した大型深鉢形土器の口縁部である。他にも同一個体とみられる口縁部片がある。口縁部文様帯は隆帯による渦巻文と楕円形区画で、区画内と胴部の地文

は単節のLR縄文である。胎土に白色細砂粒・橙色粒子を含み、赤～黄褐色を呈する。加曽利EⅡ式の新相である。2は中型深鉢形土器の口縁部から胴中部で、約20%を遺存し、推定口径27cm・現存部高19cmである。口縁部文様帯は楕円形区画と渦巻文で、渦巻が退化している。区画内と胴部の地文はRLの単節縄文で胴部は2本の沈線間を磨消した直下懸垂文がある。胎土は、微砂粒・橙色粒子・黒色粉末を含み、整形は表裏ともに粗雑で、赤～黒褐色を呈する。加曽利EⅡ



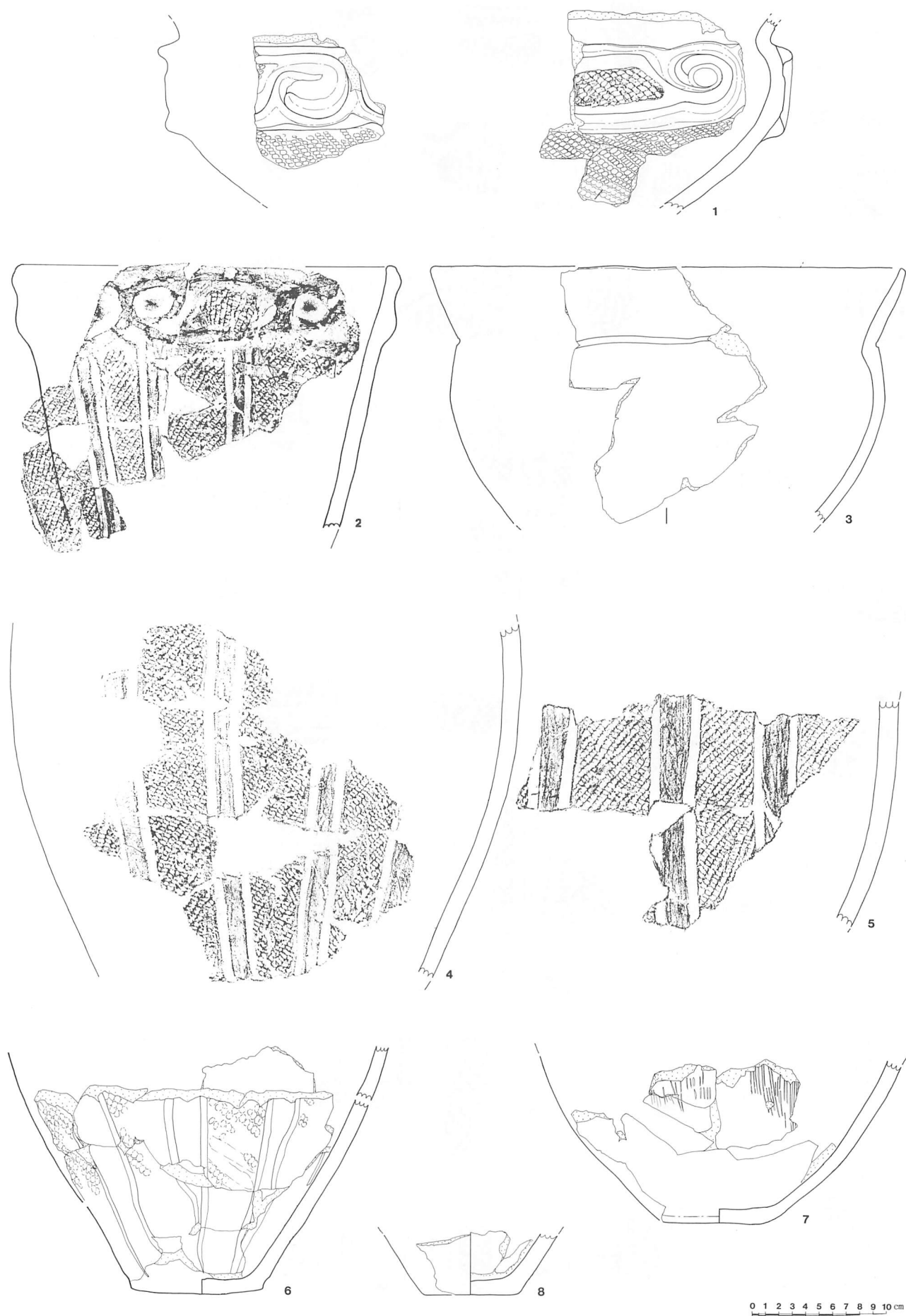
第34図 西ノ原遺跡68号住居跡 (1/60)



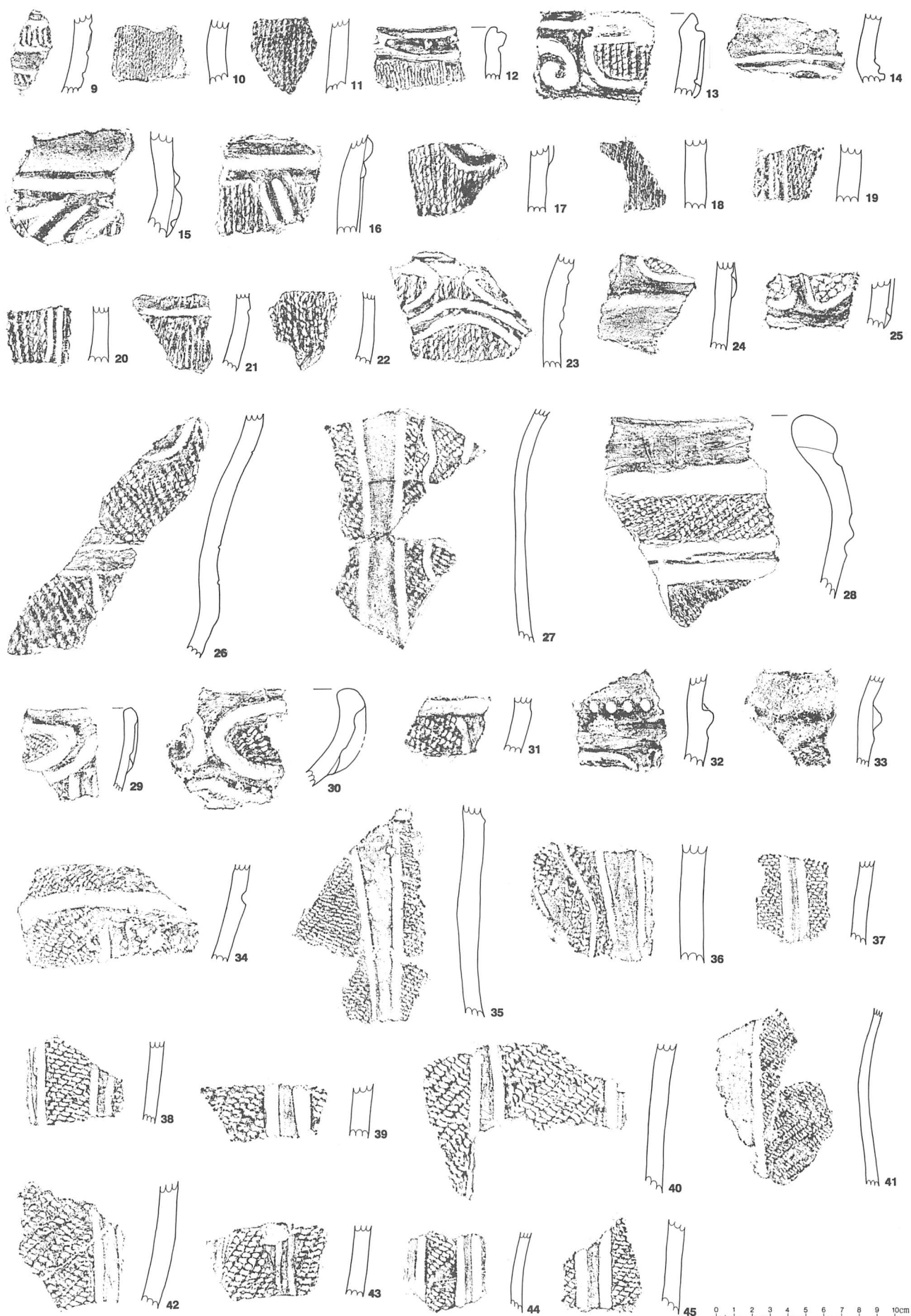
第35図 西ノ原遺跡68号住居跡遺物出土状況（1／60）

式新相である。3は無文の浅鉢形土器で、推定口径35cm・現存部高19.7cmである。口縁の直立部と体部の接合部に横位の沈線をめぐらす他は無文である。胎土には若干の粗砂粒・多量の白色微粒・橙色粒子を含み黄褐色～明褐色を呈し、口縁と体部の内面上半は整形入念であり、口縁部と沈線の一部に朱塗痕跡がある。4・5は大型深鉢形土器の胴中部片でRLの単節縄文を地文とし、2本の沈線間を広く磨消した直下懸垂文をもち、胴部の推定最大径は38cmである。胎土に細砂粒・貝粉状物質・橙色粒子を含み、整形と焼成は良好で赤～暗褐色を呈する。加曽利EⅡ式の典型である。4と5は文様構成・胎土・器厚ともに酷似し直接接合はしないが同一個体とみられる。6は大型深鉢形土器の底部で現存部高18cm・底径9.8cmである。磨滅著しいが、地文はLR縄文で幅広の磨消し直下懸垂文が入る。胎土に微砂粒を多く含み、整形は雑で焼成は甘く、赤～

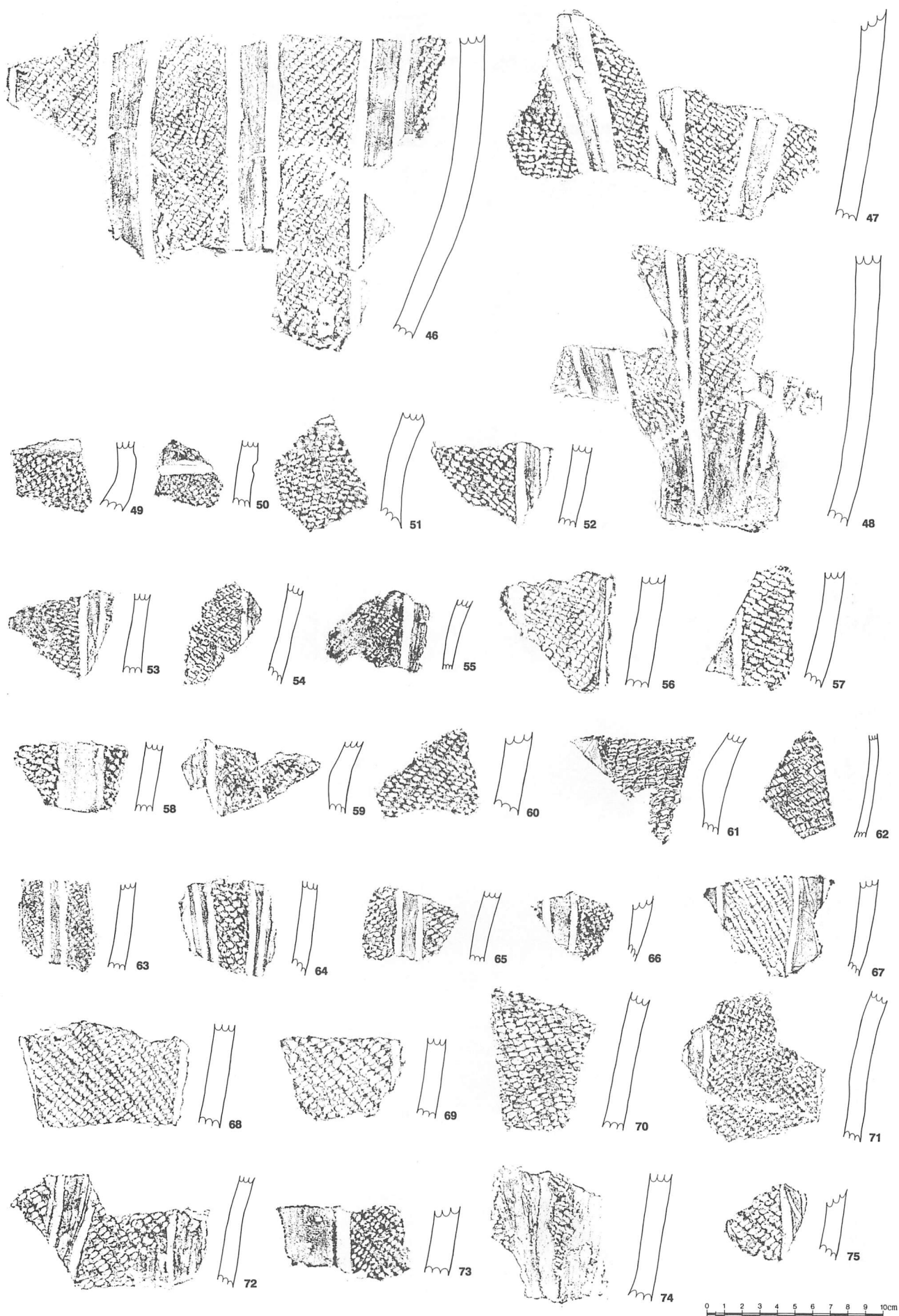
黄褐色を呈する。内面に煤の付着が著しい。加曽利EⅡ式新相といえる。7は大型深鉢形土器の底部で、底径8cm、現存部高12cmである。磨滅著しいが地文の櫛引条線が胴中部から上部にみられ、胴下半は無文である。胎土は、若干の白色砂粒と大量の橙色粒子と茶褐色微砂粒を含み、焼成は甘く褐色～黄褐色を呈する。朱塗痕が僅かに残る。加曽利EⅡ式新相の併行期といえる。8は68号住居出土の一片と76号住居出土の三片が接合した土器の底部片で底径7cmで、磨滅が著しい。胎土に白色細砂粒を若干含み、黄～赤褐色を呈し7と同時期である。9は沈線間に爪形文をもつ勝坂Ⅲ式である。10は細い撚糸文、11は縄文を施す。12は条線、13・15～23は地文撚糸文で口縁部区画文から頸部無文帯周辺である。14は沈線で頸部無文帯をつくる。19は半截竹管で半隆帯状の懸垂文、20は沈線の懸垂文、23は連弧文を伴う。10～17は加曽利EⅠ式で、18



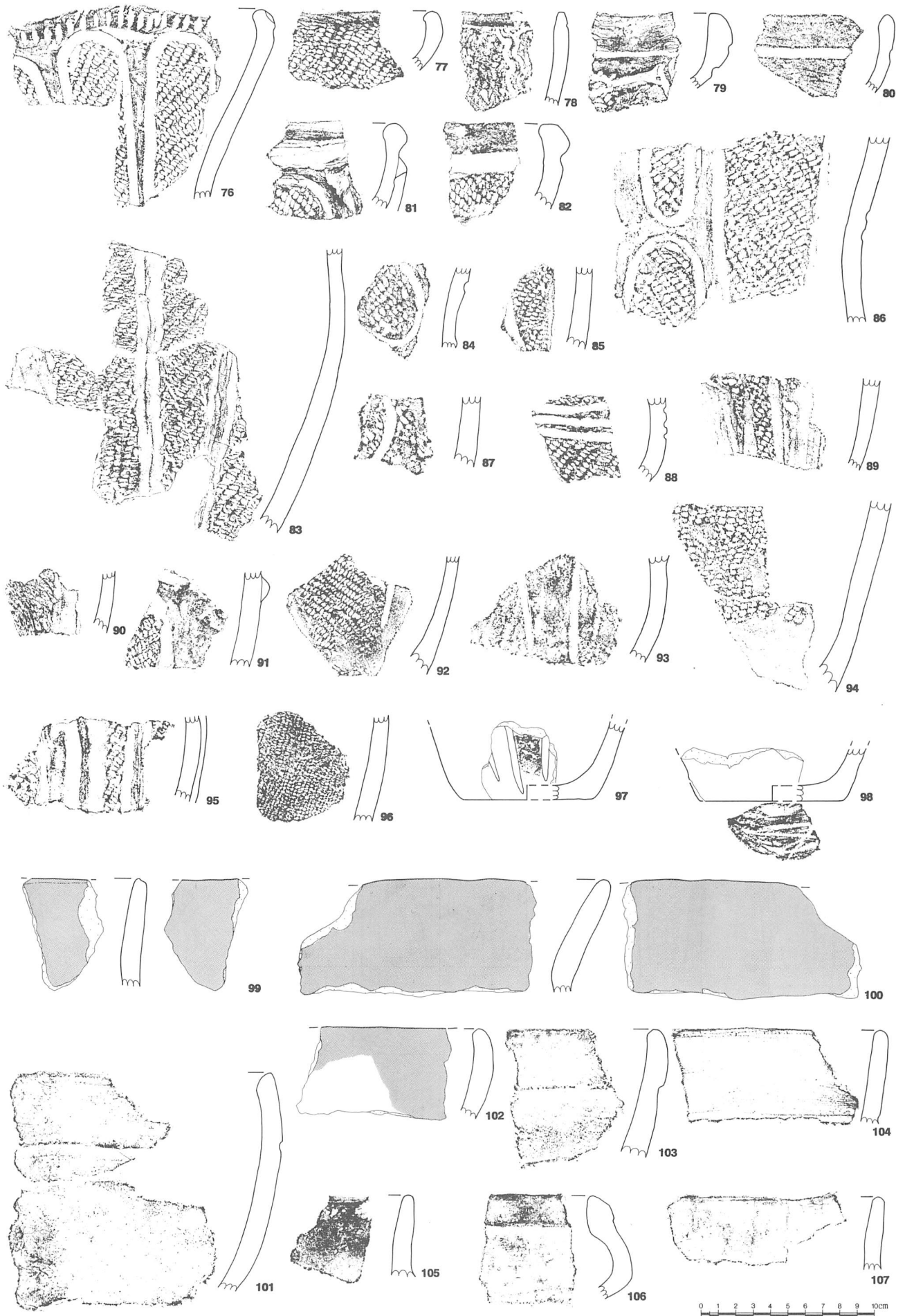
第36図 西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物① (1 / 4)



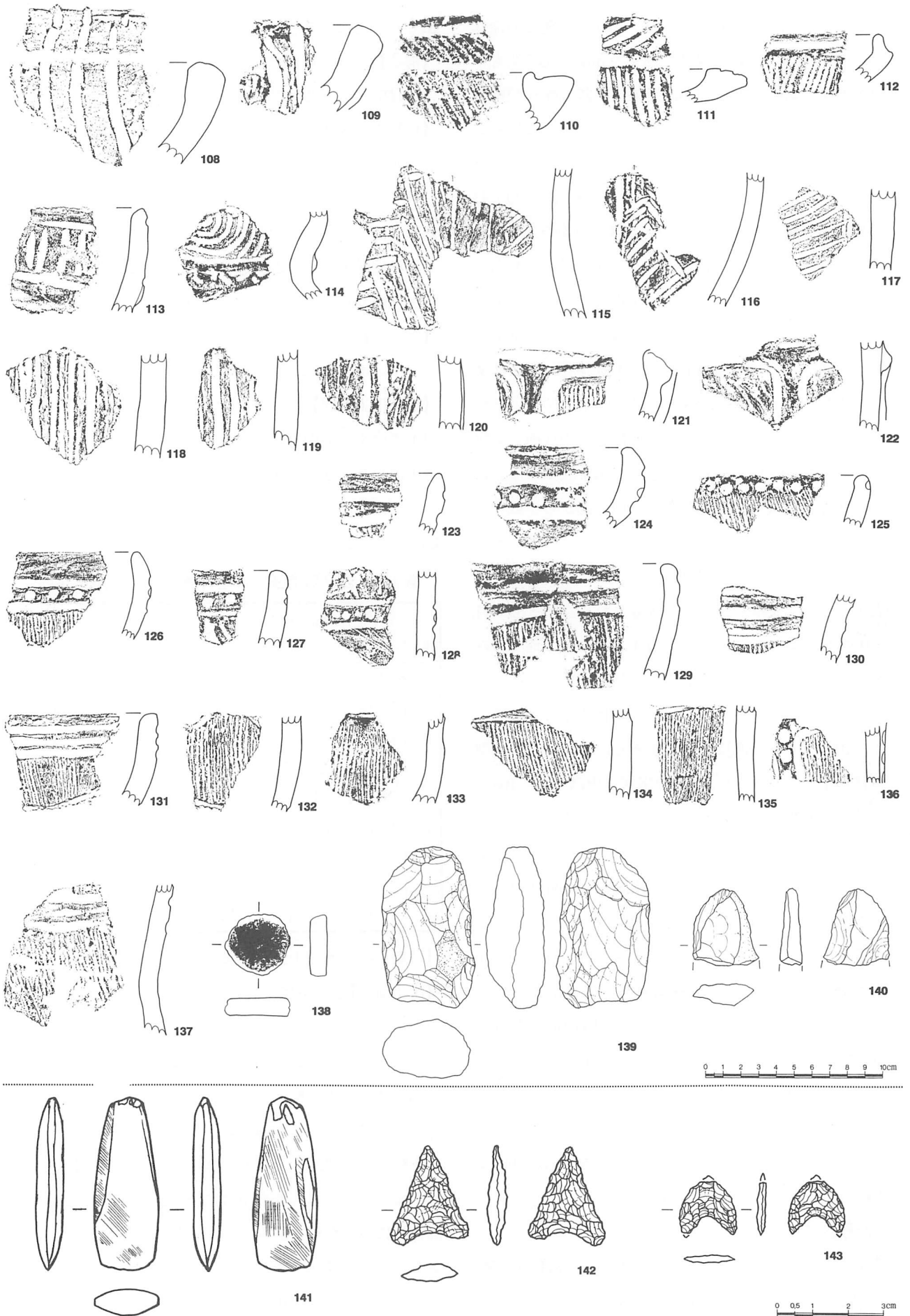
第37図 西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物② (1/3)



第38図 西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物③ (1 / 3)



第39図 西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物④ (1 / 3)



第40図 西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物⑤ (1/3・2/3)

～23は加曽利 EⅡ 式である。24～78は地文縄文の深鉢形土器で、24・25は口縁部区画文と頸部無文帯をもつ加曽利 EⅠ 新式である。26は連弧文、27は蛇行懸垂文がある。28～30は退化した区画文をもつ口縁部である。32の隆帯裾には列点文がある。34～45は沈線間を磨消した直下懸垂文をもつ胴部片で、28・35～39・43は地文複節縄文である。46～48は同一個体の大型土器で、胴中部から底部付近で共に単節 RL 縄文と磨消し直下懸垂文をもつ。49～51は地文縄文の胴上部片で、49・50は沈線を施す。52～75は沈線と磨消し懸垂文をもつ胴部片で、地文が LR 縄文・LRL 縄文・RL 縄文を施す加曽利 EⅡ 式である。76は口唇直下に刻目をめぐらせ、地文 RL 縄文に沈線で逆 U 字形の区画文を配し、間を磨消す。整形良好で加曽利 EⅢ 式である。77は口縁部に地文縄文を施し、78は口唇部から半截竹管で蛇行垂下文を、79～82は口縁部下に横位の沈線を施す。83は沈線の懸垂文間を磨消す。84～87は胴括れ部周辺の破片で文様帯が上下に区分される。88・89・91～97は地文縄文で沈線間を磨消す。94・96は地文のみで、95は沈線間の磨消し部に蕨手状文を施す。98は底に敷物痕がある。99～107は浅鉢形土器の口縁部で、99・100・102は一部に朱塗痕がある。105～107は小型深鉢形土器で、106は「く」の字状に内湾する。108～120は太い沈線を地文とする曾利式である。108～112は浅鉢形土器の口縁部である。121・122は口縁部片である。123は横位の沈線、124～128は口縁部に列点文をもち、129・131は口縁下に沈線をめぐらせ、132は連弧文を施す。125～137は地文条線を施す加曽利 EⅡ 式新相併行である。138は側面調整のある土製円盤である。139は砂岩の打製石斧で重さは189.6gである。140は頁岩製打製石斧の基部で重さ19.1gである。141はピット15の底から出土した、青ねずみ色を呈する細粒砂岩製小型磨製石斧の完形品で、重さ11.5gである。142はチャート製石鏃で重さ2.2gである。143は黒曜石製石鏃で重さ0.4gである。

①76号住居跡

【位置】遺跡中央部やや北側に位置する。隣接する東側道路部分などを平成3年度と平成8年度に調査し、住居の約半部を検出している。註2今回新たに住居の西側半分を調査し、過去の調査とあわせると全体を検

出したことになる。

【形状】全体の形状はほぼ円形に近くなる。南北方向の径は5.12m、東西方向の径は5.45mを測る。

【炉】平成8年度調査で石囲埋甕炉1基を検出している。石囲の範囲96×64cm深さ9cmを測る。炉の北側にも石を検出し土器の周りにも石囲がある。炉内やや北より底部を欠いた深鉢を埋設する。埋甕掘り込みの平面形態は円形で径23cm、炉周辺の床面からの深さは12cmで掘り込みの肩部がレンガ状に赤く焼ける。

【ピット】これまでに3本のピットを検出しているが、新たに8本を検出した。主柱穴は全部で5本である。

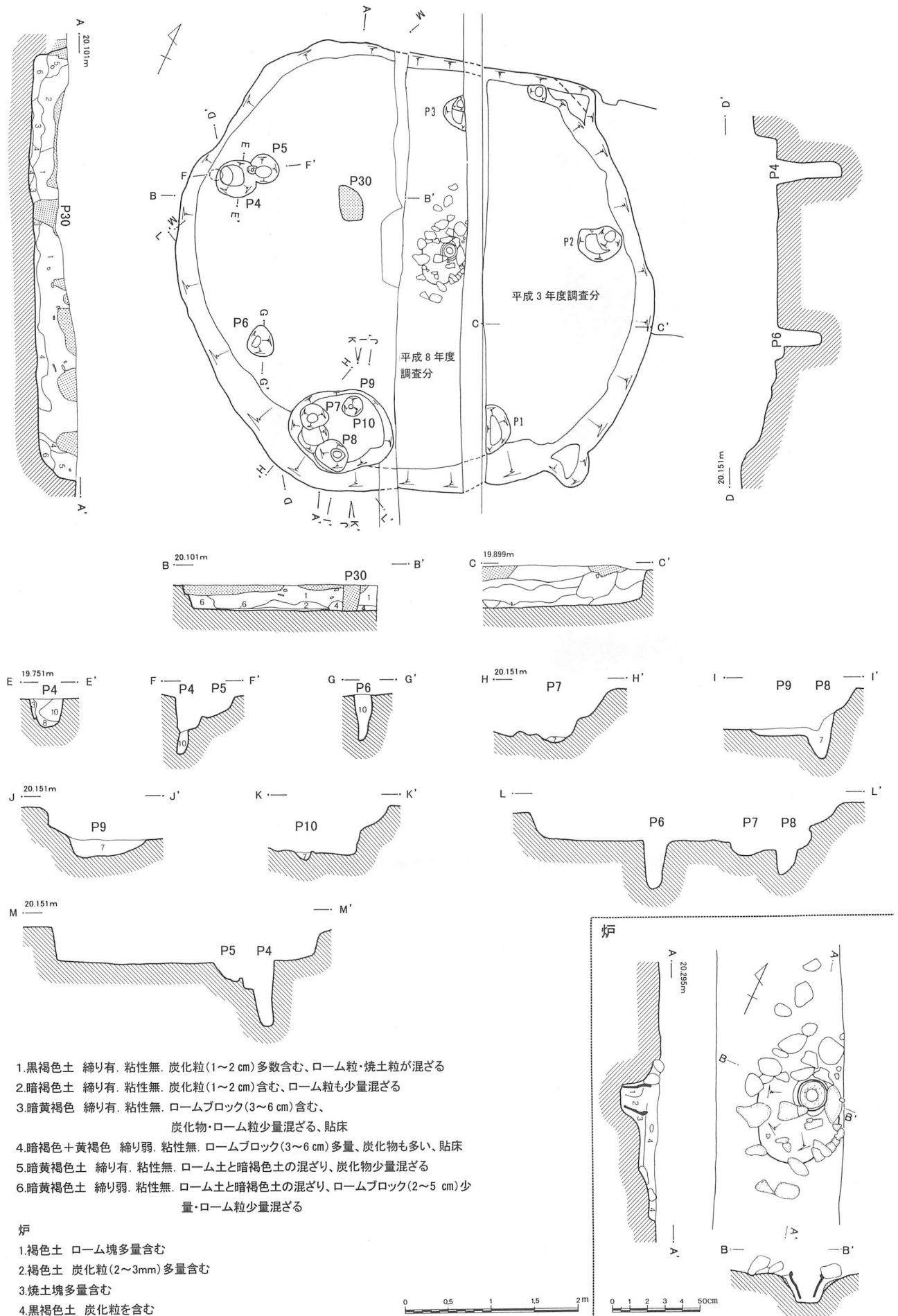
【遺物出土状況】これまでの調査同様覆土中から多量の土器片や石器が出土した。遺物量は住居跡中心部では床面やや上から覆土層全体に満遍なく出土し、住居壁際では少ない。出土遺物のうち約80%以上が加曽利 EⅡ 式である。

第9表 西ノ原遺跡76号住居跡ピット一覧表 単位cm

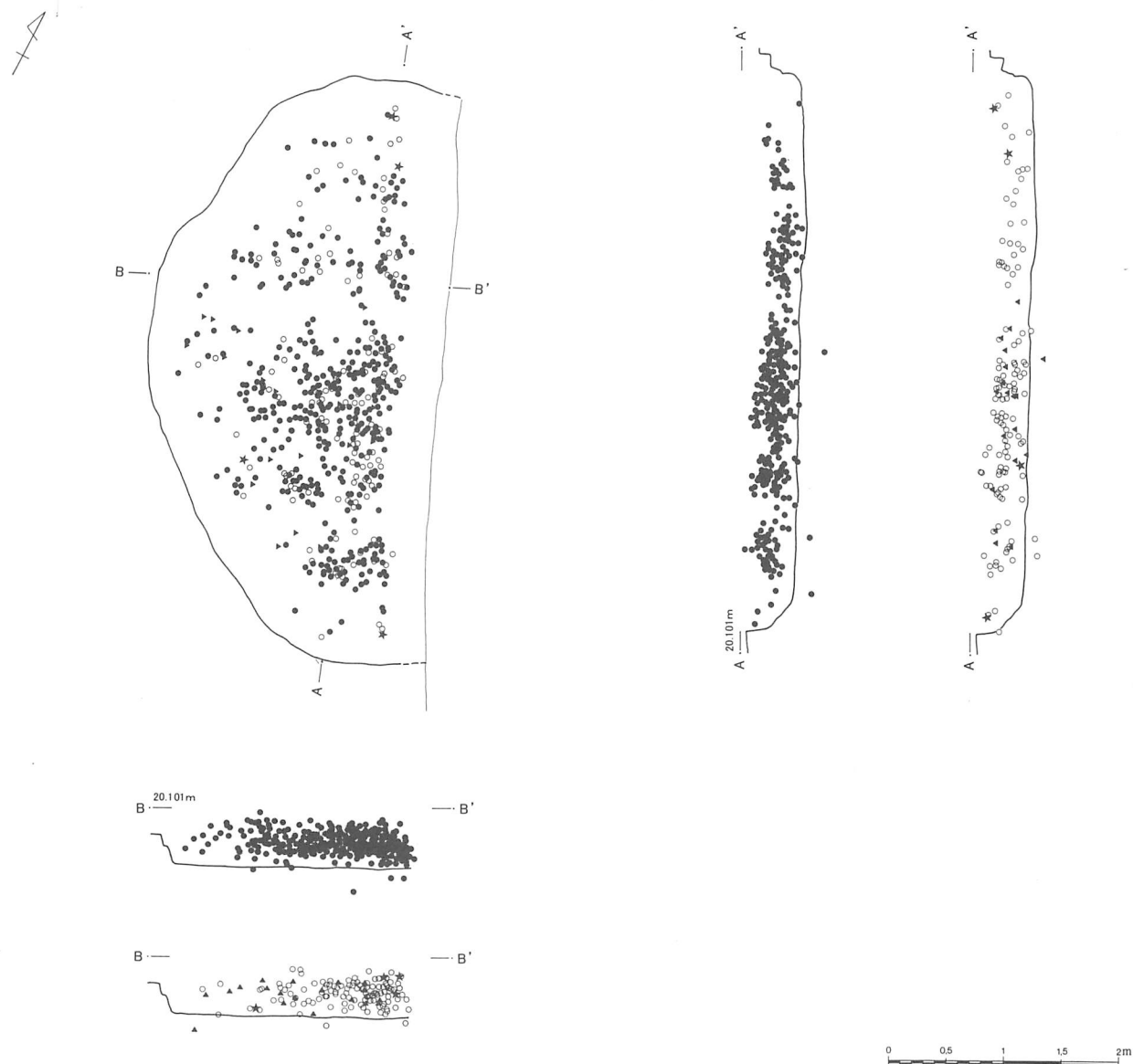
	形態	確認面径	底 径	深さ	備考
1	円 形	55	33	56	主柱穴
2	楕円形	38～50	10～12	22	主柱穴
3	円 形	41	5～8	28	主柱穴
4	円 形	32	9～16	75.2	主柱穴
5	円 形	28～34	10～15	19.2	
6	三角形	31～38	8～14	53.7	主柱穴
7	円 形	29～34	10～13	10	
8	円 形	35～38	8～10	35.9	
9	円 形	92～122	79～102	31.2	
10	円 形	12～13	5～6	10.3	

【時期】炉内埋設土器から加曽利 EⅡ 式新相。

【出土遺物】1は炉体土器で、1997年の調査で出土し、胴部下半を欠いた深鉢形土器である。口径18cm・現存部高12cm・器厚1.1cmである。口縁部は楕円形区画文と渦巻文を4単位配置し、隆帯脇に沈線をめぐらす。地文は複節縄文で2本の沈線間を磨消した2本1組の直下懸垂文11組22本で胴部文様帯とする。焼成良好で胎土には1～3mmの砂を多量に含み、内面全体と口縁部外面にハジケ現象がみられる。加曽利 EⅡ 式中相である。2は口縁部の約二割を残す深鉢形土器で、推定口径24cm・現存部高9.5cmである。口縁部文様帯は長楕円形区画と渦巻文である。胴部文様帯は地文縄文に、太い沈線の蛇行懸垂文と2本1組の幅狭の磨消し



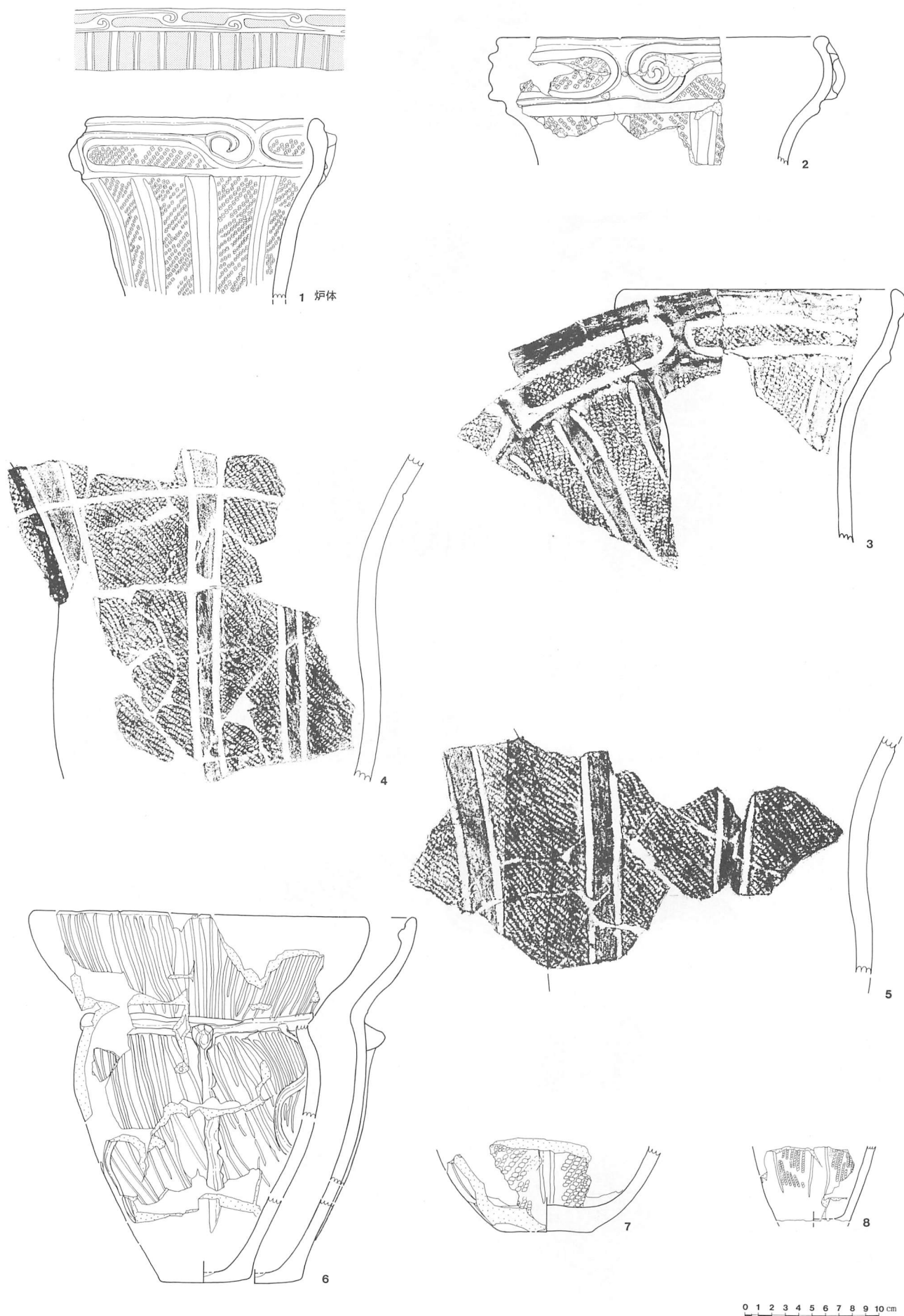
第41図 西ノ原遺跡76号住居跡(1/60)、炉(1/30)



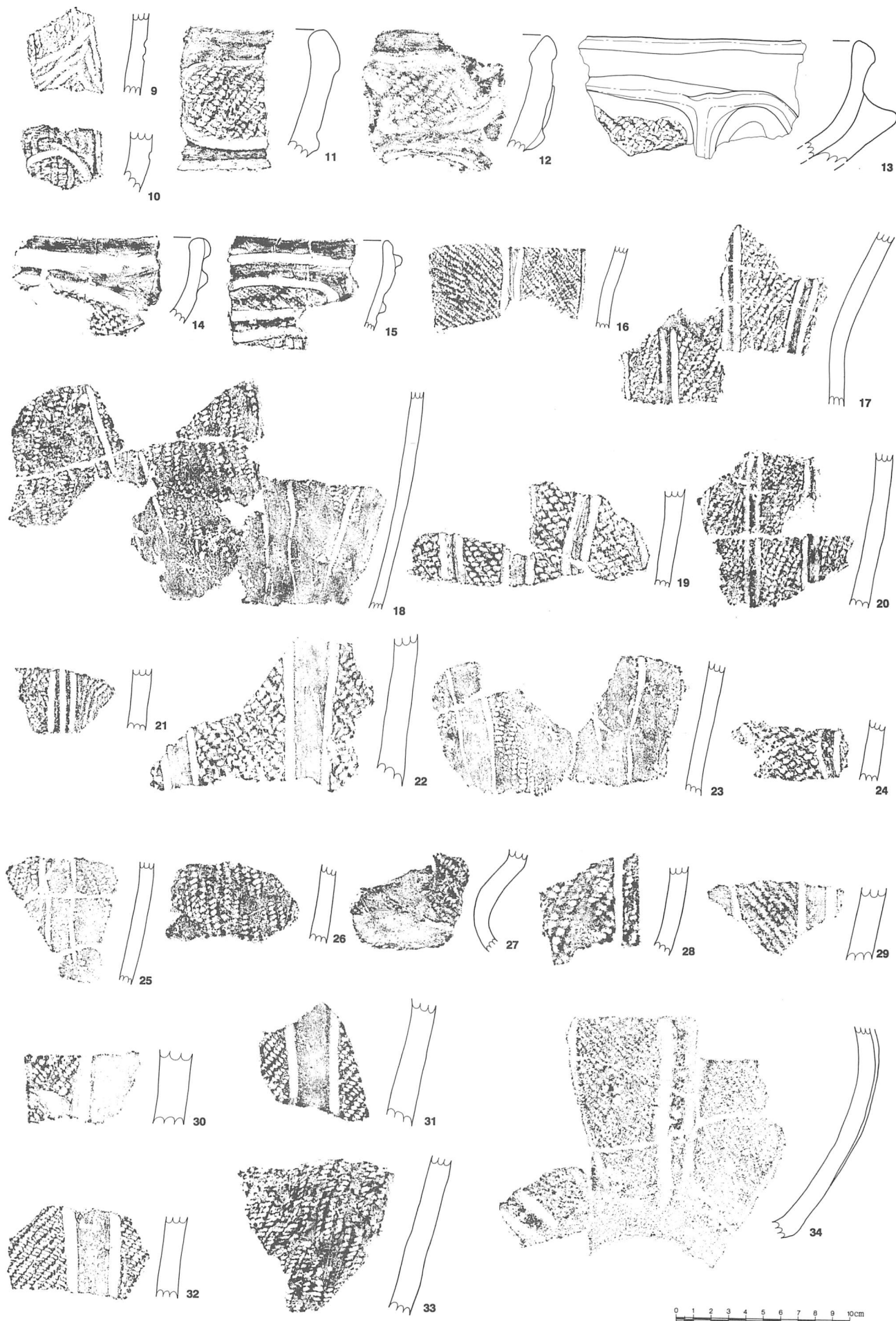
第42図 西ノ原遺跡76号住居跡遺物出土状況（1／60）

直下懸垂文を配する。胎土は1～3mm大の砂と橙色粒子を含み、暗褐色を呈し焼成良好で、加曽利EⅡ式中相である。3は口縁部から胴中部までの半分を残す深鉢形土器で、推定口径20.4cm・現存部高19cmである。口縁部は長楕円形区画のみで渦巻文はない。胴部は地文を縦長に磨消した直下懸垂文である。胎土は1に類似し暗褐色を呈する。口縁部に補修孔とみられる円孔がある。加曽利EⅡ式新相である。4・5は1・2よりも大きい深鉢形土器胴部周辺で、接合はしないが同一個体である。括れ部の推定径は23.5cmである。地文は縄文で沈線による2本一組の磨消し懸垂文を加え、頸部に横位の太い沈線が一本めぐり、6は口縁から底までを有するが、口縁部70%を欠く。推定口径25cm・残存部高27.5cmである。口唇部上面と内湾して広がる

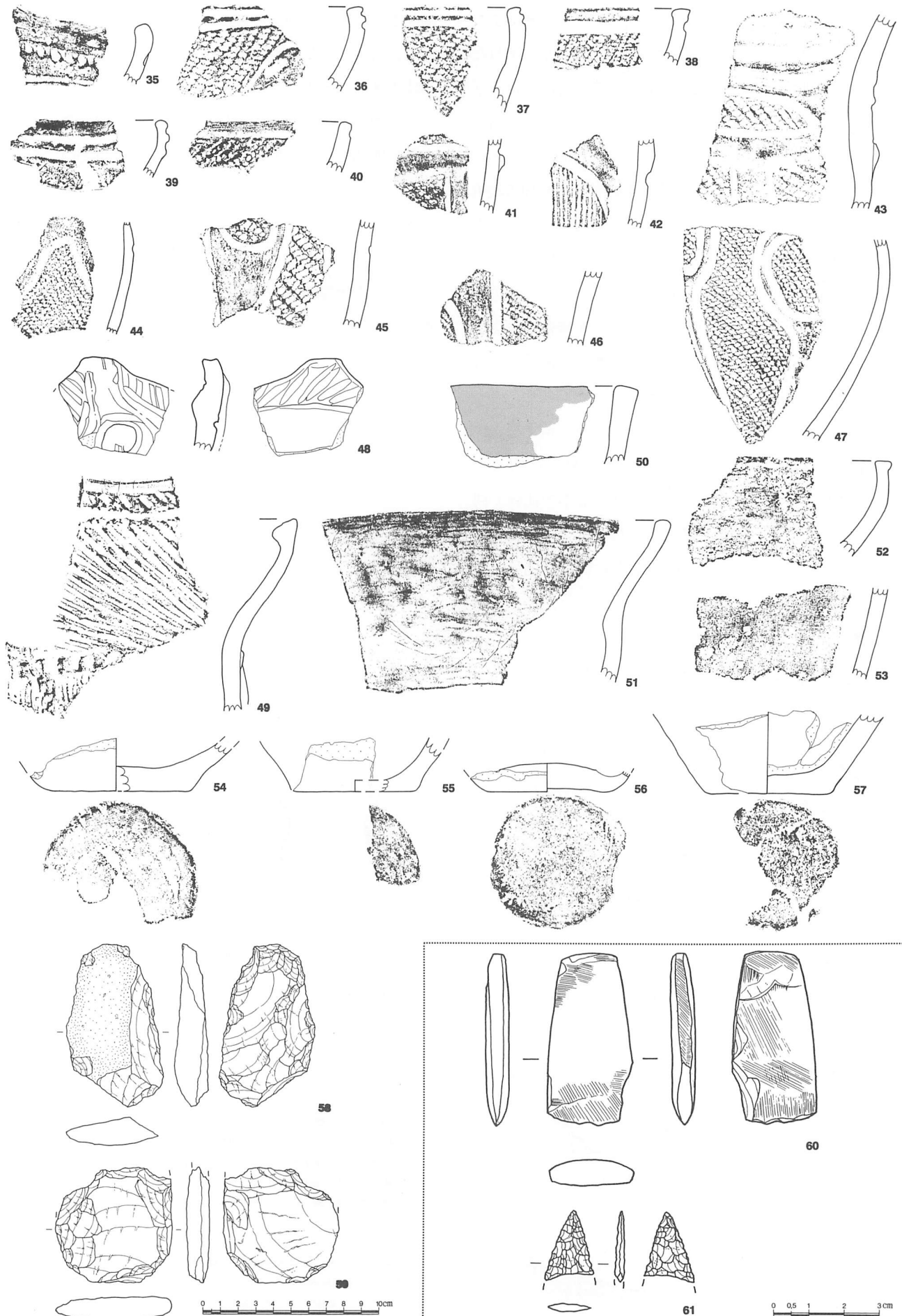
口縁部には棒状工具による沈線列が全面に施し、胴部も同じ斜位の沈線文である。頸部には太い隆帯をめぐらせ、隆帯の直下懸垂文との交点は瘤状に突出する。懸垂文は隆帯の直下懸垂文と蛇行懸垂文3単位がある。胎土には3～4mm大の白色砂粒・橙色粒子・輝石粉末を含み、暗褐色を呈する。曽利4式といえる。7は深鉢形土器片で、底径7cm・現存部高7cmである。RL縄文を縦位に施文し、2本一組の沈線と磨消し直下懸垂文を加える。8は底板を欠く小型深鉢形土器の底部で、推定径5.5cm・現存部高5cmである。細いRL縄文を斜めに施文し磨消し懸垂文を加える。6・7共に加曽利EⅡ式新相である。9は地文撚糸文に連弧文が加わる。10は地文縄文に不定弧状沈線が加わる。11～15は口縁部で隆帯の区画文に地文縄文を施す。16



第43図 西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物① (1 / 4)



第44図 西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物② (1/3)

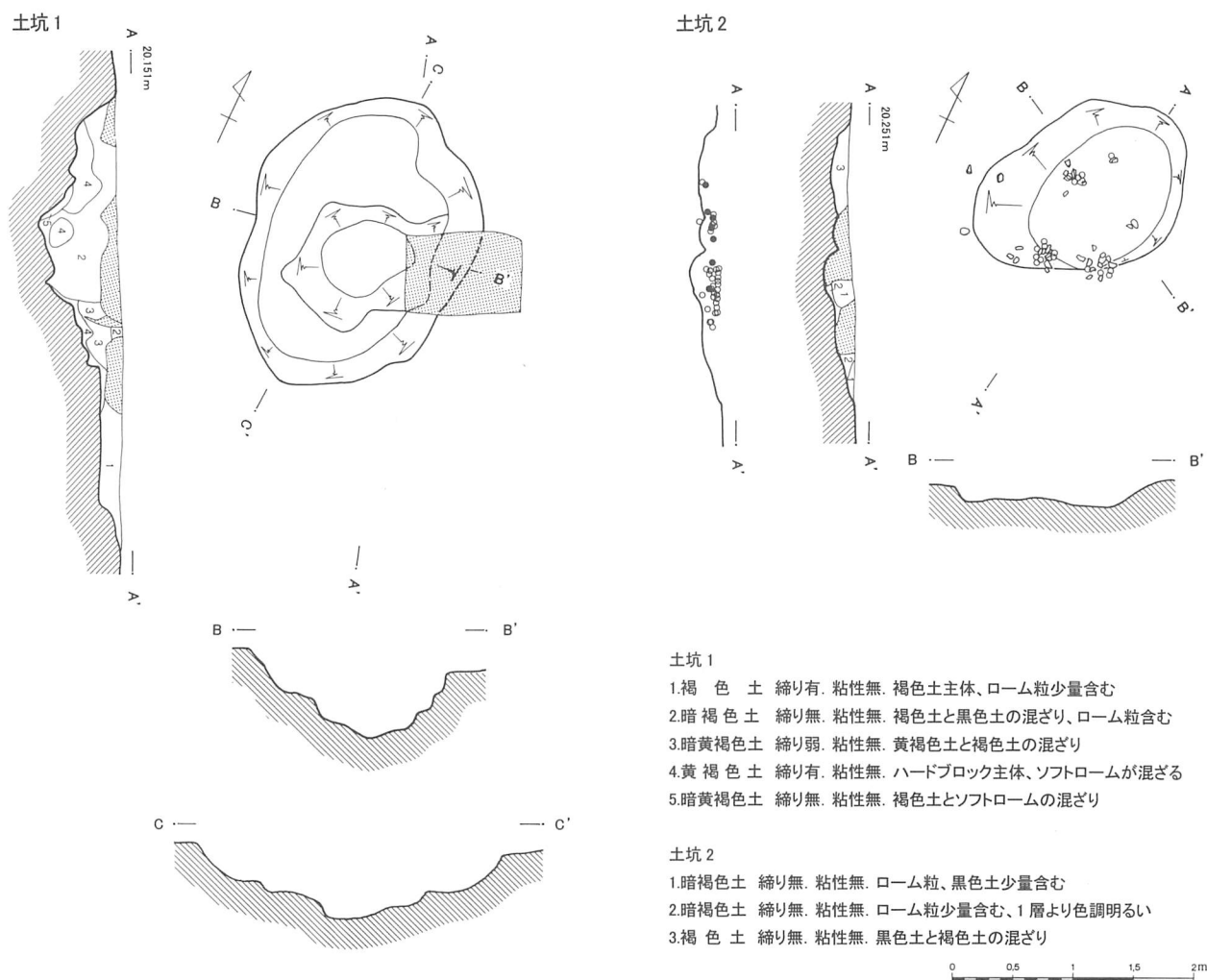


第45図 西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物③ (1/3)

～20は地文が各種の縄文で、幅狭な磨消し懸垂文をもつ。21は3本の沈線を垂下させ磨消し手法を伴わない。22～26・28～32は地文縄文で幅広く磨消した直下懸垂文をつくる胴部片である。33・34はこの類の胴部下半から底部片である。9～34は加曽利EⅡ式中相と新相である。28は地文縄文で隆帯が剥がれた加曽利EⅠ～Ⅱ式である。35～40は口縁直下に沈線をめぐらす地文縄文の中型深鉢で、35は波状口縁に連続刺突文、36は連弧文、39は口唇の沈線から磨消し懸垂文が始まる。41は体部との境に隆帯をめぐらし沈線の懸垂文を施す。42は沈線列を地文とし弧状に磨消す薄手の口縁部である。43は胴上部に楕円形区画をめぐらせ、最大径部から直下磨消し懸垂文を加える。44は地文縄文に沈線、45・46は地文の縄文をU字状に残して広く丁寧な磨消す。47は地文をスベード状に2本の沈線で囲む。48は口唇部内外面に沈線文、口縁部は隆帯を貼付し沈線の渦巻文を施す、49は口唇部に斜位の刻目と口

縁部から胴部は、地文沈線文に押圧のある隆帯を貼付する。44～47は加曽利EⅢ式・Ⅳ式と思われる。50～53は浅鉢形土器の口縁部で、50は直立口縁、51はラッパ形、52は小型、53は胴部片である。54～57は深鉢形土器の底部で、底の僅かに植物圧痕が残る。50の口縁表面黒色塗彩が明瞭で、43・53にも朱痕が残る。

58は細粒砂岩の製打製石斧で重さ91.6gである。59は頁岩の打製石斧で重さ74.6gである。60は緑色凝灰岩製の小型磨製石斧（定角式磨製石斧）で重さ14.5gである。61はチャート製の石鏃で重さ0.6gである。



第46図 西ノ原遺跡第121地点土坑（1／60）

③土坑

【土坑1】調査区の南東隅に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は上端167×253cm、底径53×76cm、深さは確認面から67.2cmを測る。

【土坑2】調査区の中央部に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は上端133×188cm、底径133×94cm、深さは確認面から24.9cmを測る。

④溝

本調査区に隣接する第27・49地点道路部分の調査から6本（溝21、22、23、25、26、27）註3の溝が確認されているが、今回新たに1本の溝が確認検出された。

【溝1】第27・49地点の溝22、27につながる溝とみられる。クランク状に延び底部が部分的に2本に分かれる。溝2と重複し本溝が古いとみられる。上幅は1.65～3.25m、下幅0.2～1m、深さ14.3～46.9cmを測る。

【溝2】第27・49地点の溝22、27につながる溝とみられる。クランク状に延び、溝1と重複し本溝が新しいとみられる。上幅は0.8～1.2m、下幅15～65cm、深さ約10.8～28.5cmを測る。

【溝3】第27・49地点の溝23、27につながる溝とみられる。L字状に延び、溝4と重複し本溝が新しいとみられる。上幅は0.75～1.18m、下幅10～28cm、深さ約11～43.7cmを測る。

【溝4】調査区東部に位置し76号住居跡、溝3と重複する。住居跡より新しく溝3より古いとみられる。上幅は1.28～1.48m、下幅10～20cm、深さ約18.8～27.9cmを測る。

⑤ピット 第10表のとおり35基を検出した。

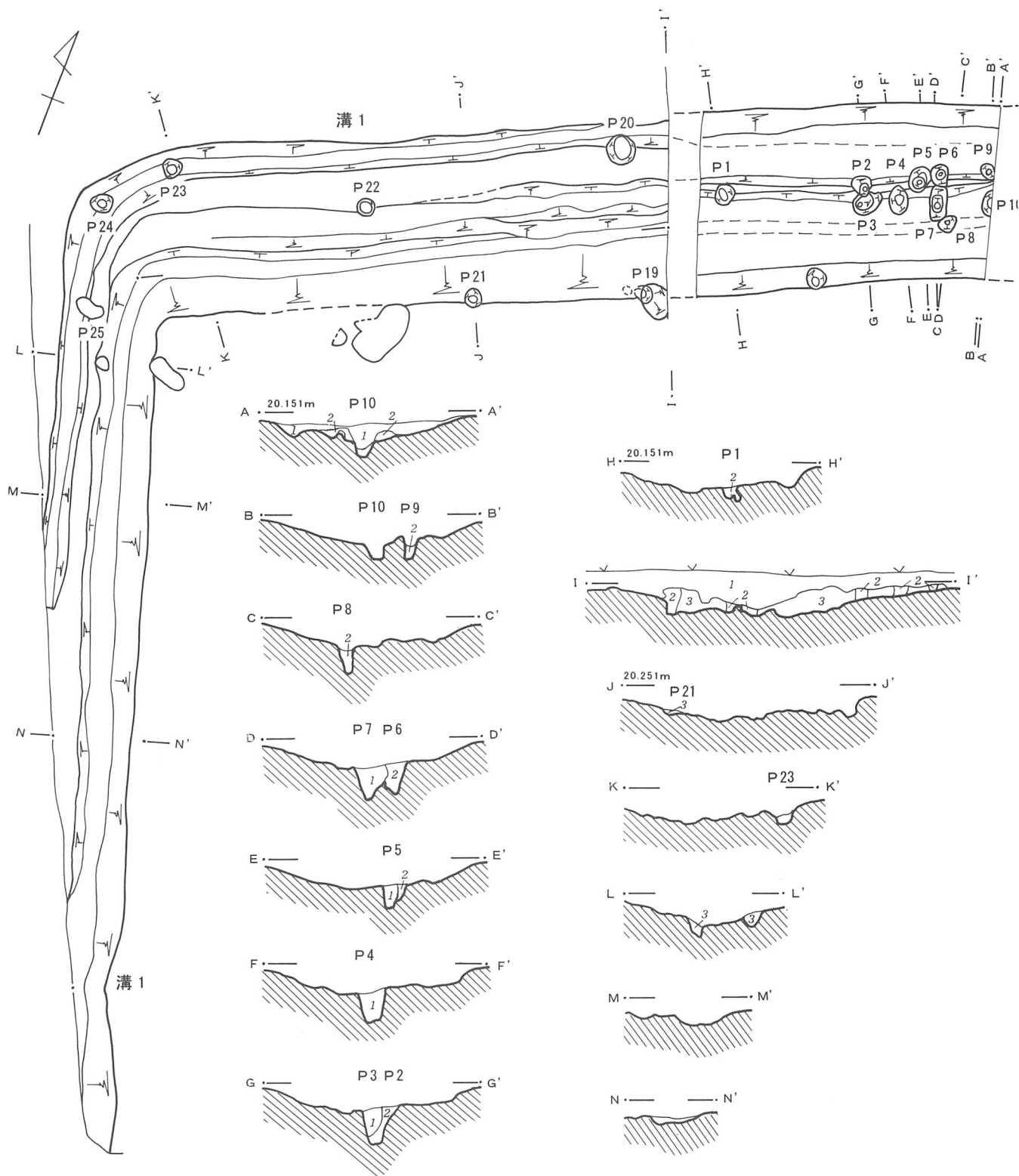
⑥土坑・ピット・遺構外出土遺物

1～6は土坑1出土で、1は波状口縁部の突起、2は深鉢形土器の口縁部片である。3は深鉢形土器の頸部で太い沈線を地文とし、4・5は地文条線と沈線の胴部片、6は地文縄文に磨消し懸垂文を伴う。いずれも加曽利EⅡ式新相である。7はピット4出土で櫛歯状沈線に磨消しを伴い、8は溝1出土で太い条線の地文のみの胴部片である。9～30は遺構外出土である。9は把手付深鉢形土器の口縁部で前に突出した把手上に刻目を入れ内は円孔としており、地文は縄文の勝坂Ⅲ式である。10・11は深鉢形土器口縁部の渦巻文である。12は浅鉢形土器の無文口縁部に補修孔とみられる

第10表 西ノ原遺跡第121地点ピット一覧表 単位cm

No.	形態	確認面	底径	深さ	備考
1	円形	34～40	11～23	27.1	
2	三角形	35～39	7～14	69.7	
3	楕円形	35～56	8～10	58.9	
4	楕円形	33～51	15～22	58.8	
5	楕円形	38～47	7～10	54.9	
6	(楕円形)	29～(40)	5～10	58.2	
7	長方形	30～60	9～11	63.2	
8	円形	30～36	8～10	46.1	
9	楕円形	24～33	8～11	48.1	
10	(楕円形)	(15)～51	(7)～20	31.1	
11	円形	28～29	14～17	34.8	
12	三角形	35～43	9～10	86.8	
13		17～(24)	～	62.1	
14	三角形	25～27	7～7	72	
15		44～37	8～11	97.1	
16	楕円形	18～29	4～7	17.1	
17	円形	23～29	8～10	86.8	
18	円形	30～41	13～15	18	
19	楕円形	48～65	15～24	19.4	縄文
20	円形	50～51	30～41	15.7	縄文
21	円形	30～32	13～19	10.7	縄文
22	円形	29～30	20～21	23	縄文
23	三角形	33～35	17～19	18.8	縄文
24	方形	30～35	15～17	16.8	縄文
25	楕円形	28～55	5～6	46.7	縄文
26	方形	56～70	6～10	55.6	
27	円形	48～50	25～29	50.9	
28	円形	35～36	11～16	24.1	
29	円形	76～83	60～61	26.7	
30	方形	26～40	6～17	37.1	
31	円形	40～49	15～22	20.3	縄文
32	円形	57～58	20～39	48.4	縄文
33	(円形)	(37～61)	(13～22)	28.8	縄文
34		59～90	14～17	83.4	縄文
35	円形	89～100	72～74	40	縄文

円孔がある。13・14は浅鉢形土器の口縁部で13は地文沈線、14は地文竹管状工具の内側を用い沈線で格子状文を施す。15～19は地文が沈線の胴部片であるが、15には隆帯貼付の懸垂文がある。13～19は曽利系である。20～22は地文条線であるが、21の口縁部直下には連弧文がある。23～25は地文縄文で、23は口縁部に区画文をもち、他は磨消し懸垂文がある。26は深鉢形土器の波状口縁部に円形刺突文をもち2本組の連弧文を伴う。27は地文の縄文を弧状に磨消している。28・29は中型深鉢形土器の底部である。30は台付土器の台部のみで上部は不明である。31はピット4出土で緑閃石の自然礫を利用した敲石で重さ156.5gである。32は溝出土の砂岩製打製石斧で65.9gである。33～36は遺構外出土で、33は片面に自然面を残す砂岩製の打製石斧で、重さ56.4gである。34は頁岩製打製石斧で刃部を大きく欠損し重さ48.2gである。35はホルンフェルス的大型剥片で大きく破損した残存部の重さ41.5gである。36は軟質凝灰岩製の小型砥石で破損部を除く各側面に使用痕があるが、使用による磨滅が著しいのは一面のみで重さ59.8gである。31～35は縄文中期のもので36は中・近世のものである。



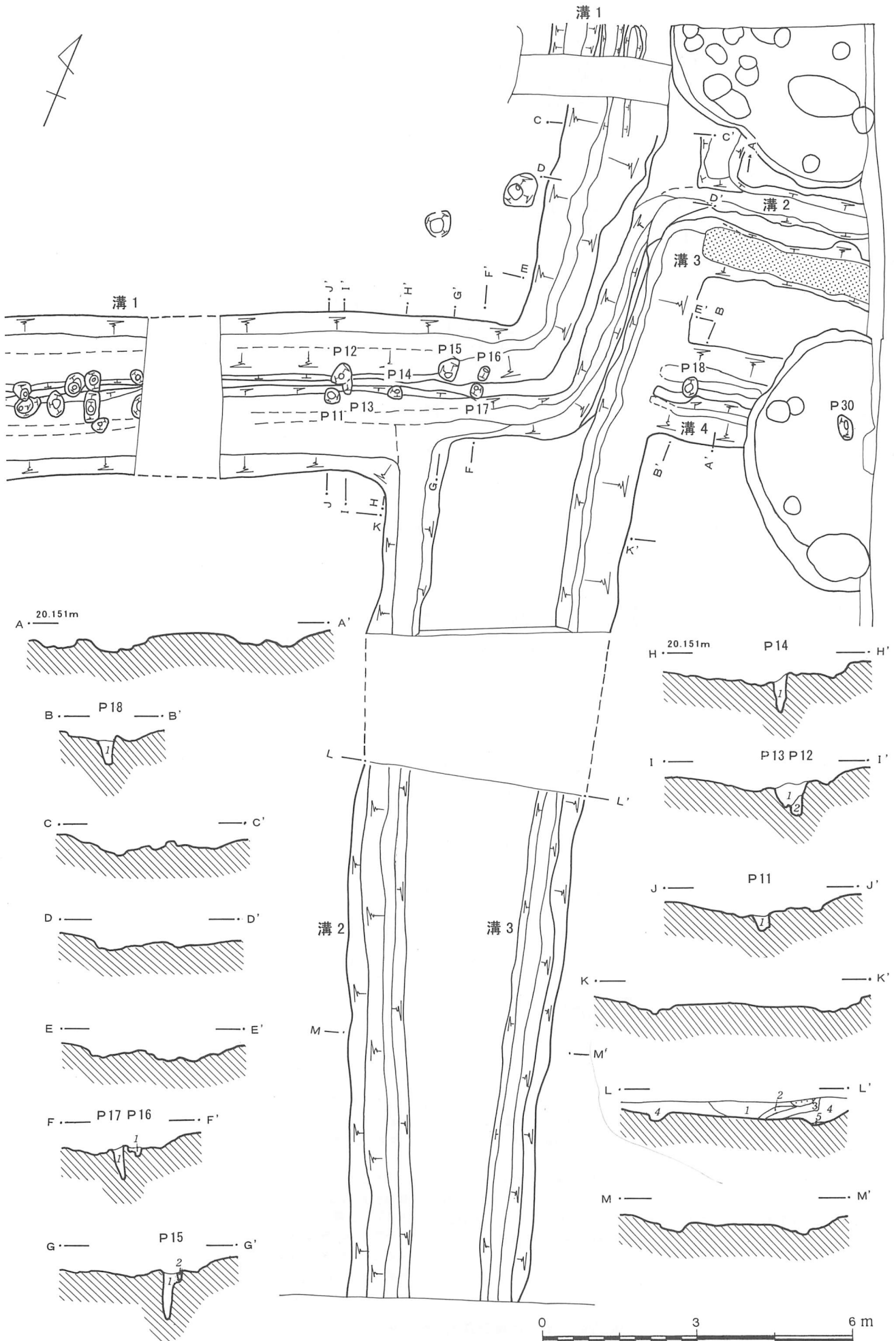
I-I' 土層

1. 表土. 耕作土. 黒色土. 0.5 cm以下ローム粒少し含む
2. 表土. 耕作土. 10 cm大ロームブロック多く含む、ゴボウ耕作痕
3. 表土. 耕作土. 3 cm以下ロームブロック多く含む(耕作痕? 溝覆土?)

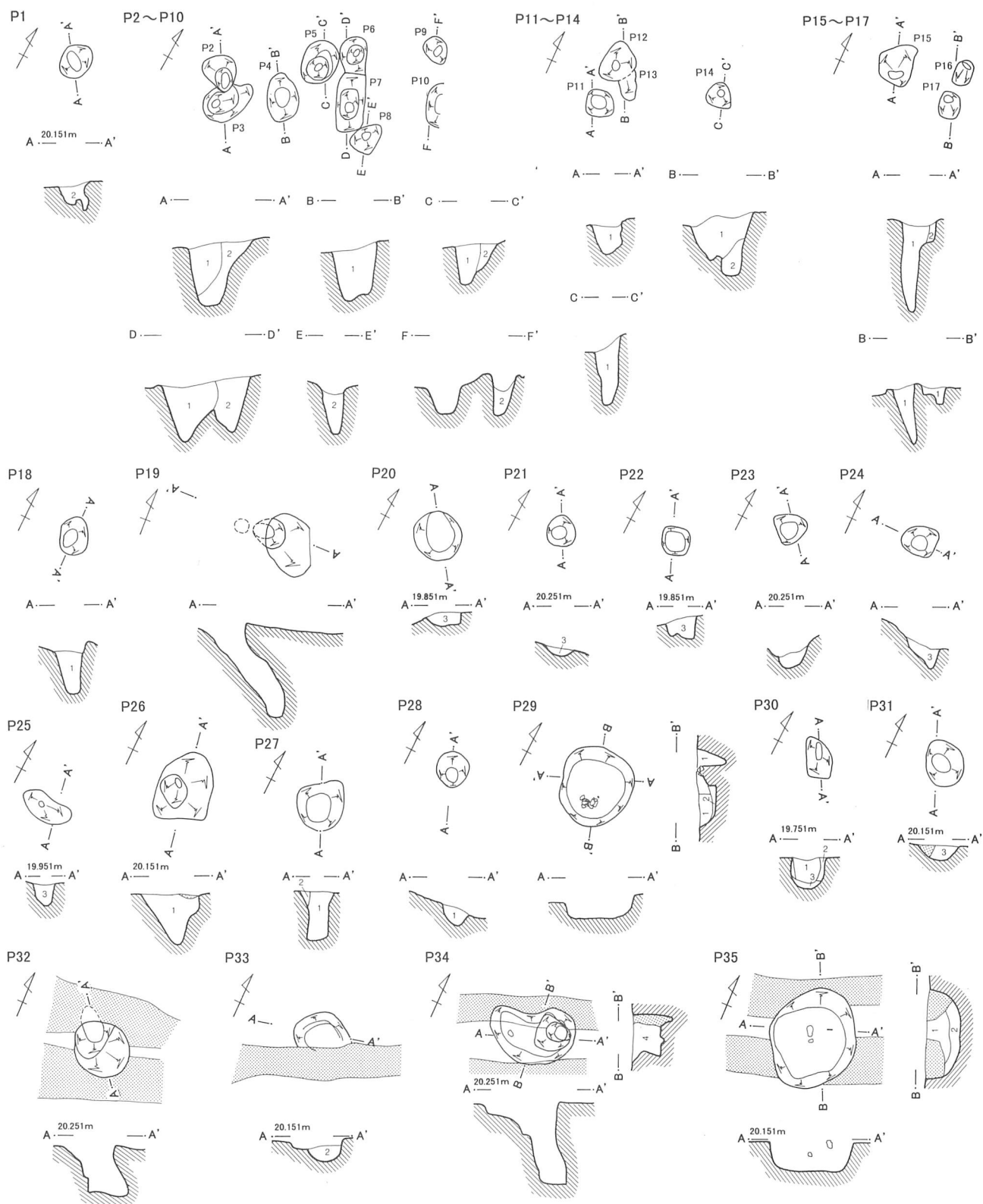
L-L' 土層

1. 暗黄褐色土 締り有. 粘性無. 客土、ロームにより埋土
2. 褐色土 締り有. 粘性無. 客土? ゴミ多し
3. 暗黄褐色土+褐色 客土. ローム土と褐色土の混ざり
4. 黒褐色土 締り無. 粘性無. 黒褐色土主体、ロームブロック(1~3 cm)多量に含む
5. 褐色土 締り無. 粘性無. 褐色土主体、ロームブロック(1~2 cm)を含む

第47図 西ノ原遺跡第121地点溝① (1/100)



第48図 西ノ原遺跡第121地点溝② (1/100)



ピット1～18土層

1. 黒褐色土 締り無. 粘性無. 黒褐色土主体、ロームブロック(1～3 cm)多量に含む
2. 褐色土 締り無. 粘性無. 褐色土主体、ロームブロック(1～2 cm)を含む

ピット19～25・31～34土層

1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 0.2 cm以下のローム粒多量含む、焼土・炭化物含まない
2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 0.2 cm以下のローム粒少し、1 cm以下のシミ状ローム少し含む
3. 褐色土 締り強. 粘性有. 0.5 cm以下のロームブロック少し含む、ソフトロームに似る
4. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2層に似るがシミ状の暗褐色土をやや多く含む

ピット27～29土層

10. 褐色土 締り無. 粘性弱. 褐色土主体、炭化物と思われる粒(～1mm)が混じる
11. 明褐色土 締り無. 粘性無. ローム崩土主体、褐色土が斑に入る

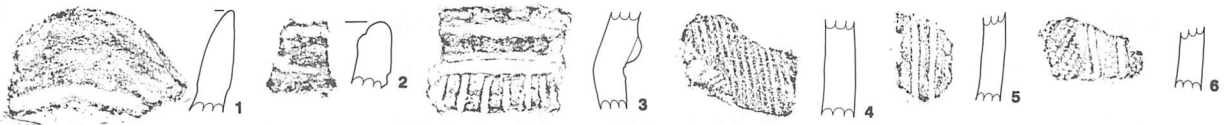
ピット35土層

1. 暗褐色土 0.2 cm以下の焼土・炭化物やや多く含む
2. 暗褐色土 ほぼ何も含まない、暗褐色土のみ

ピット26・30土層

1. 黒褐色土 締り無. 粘性無. 黒色土主体、ロームブロック(1～3 cm)が斑に入る
2. 褐色土 締り無. 粘性無. 褐色土主体、ロームブロック(1～2 cm)が斑に入る
3. 暗黄褐色土 締り無. 粘性無. ローム崩土と褐色土の混じり、ローム主体

土坑1



P4

溝

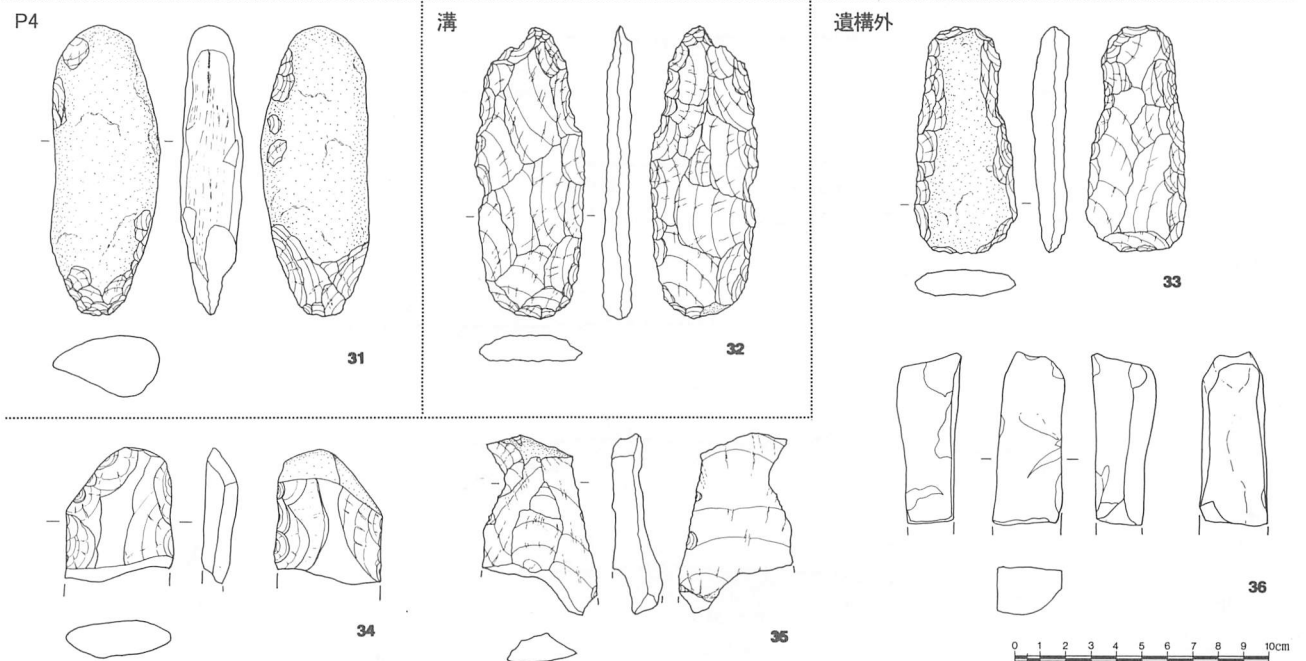
遺構外



P4

溝

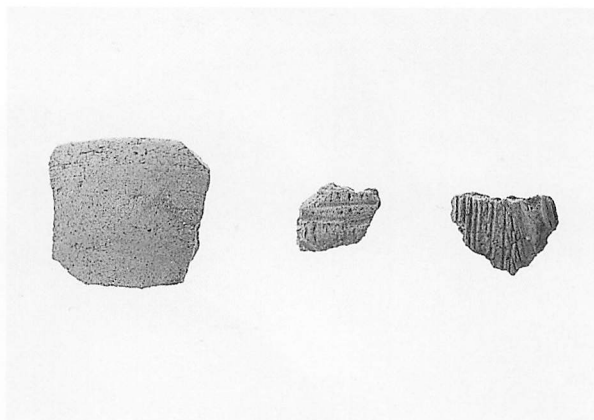
遺構外



第50図 西ノ原遺跡第121地点土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物 (1 / 3)



西ノ原遺跡第120地点調査風景



西ノ原遺跡第120地点出土土器



西ノ原遺跡第121地点調査区近景



西ノ原遺跡第121地点調査区近景



西ノ原遺跡第121地点調査区遠景（東側調査区終了）



西ノ原遺跡68号住居跡



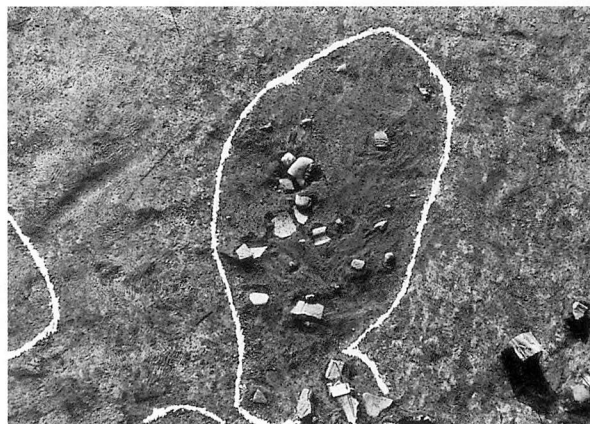
68号住居跡遺物出土状況（上層）



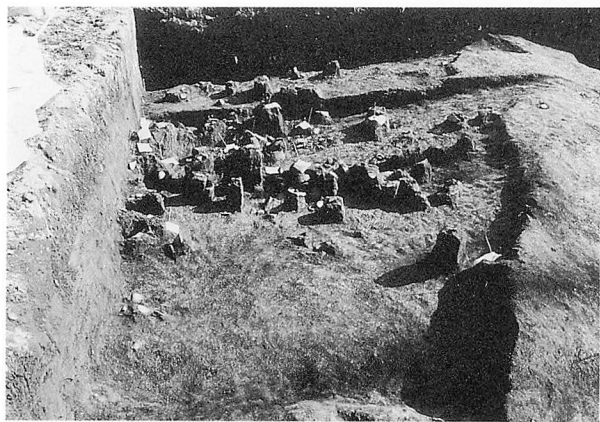
68号住居跡遺物出土状況（下層）



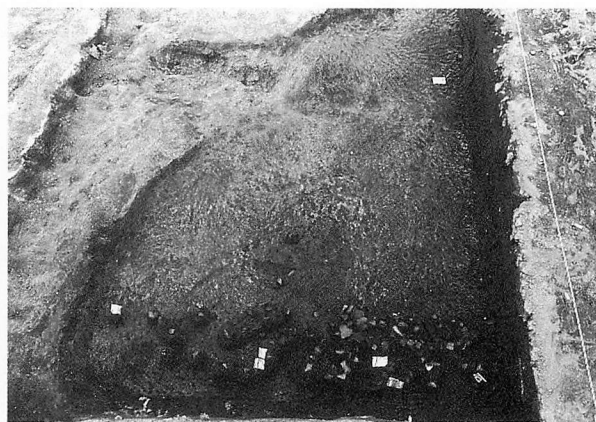
68号住居跡P 15内小型磨製石斧出土状況



68号住居跡P 27遺物出土状況



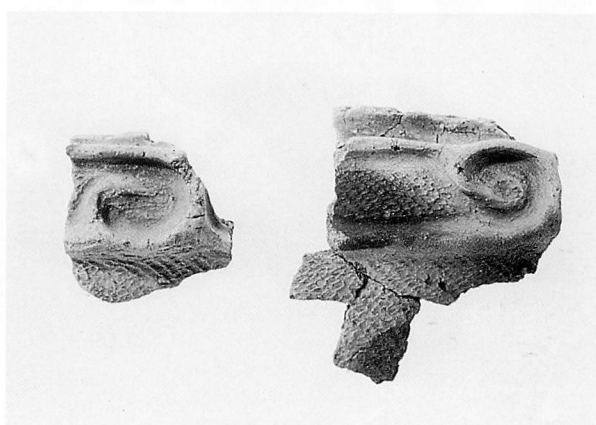
西ノ原遺跡68号住居跡遺物出土状況



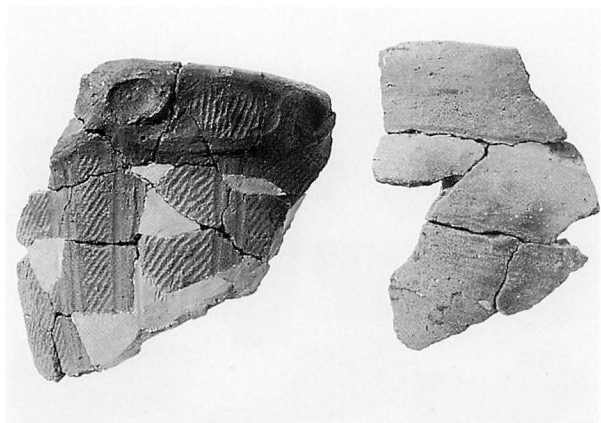
西ノ原遺跡68号住居跡遺物出土状況



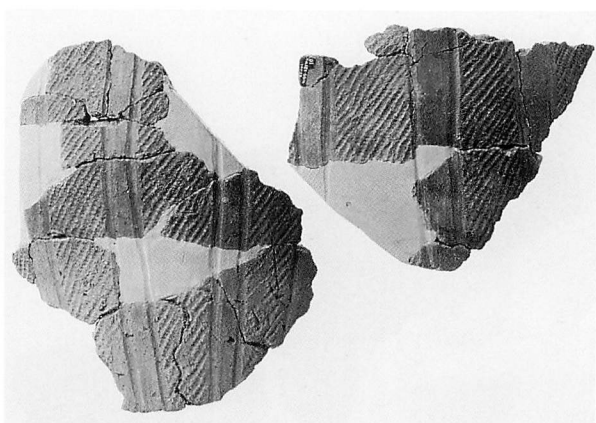
西ノ原遺跡68号住居跡調査風景



西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 1)



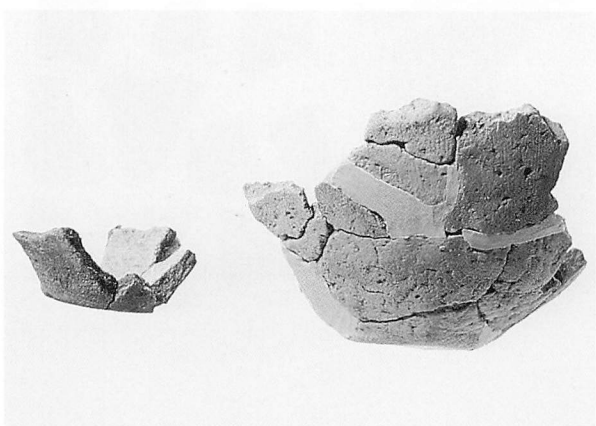
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 2・3)



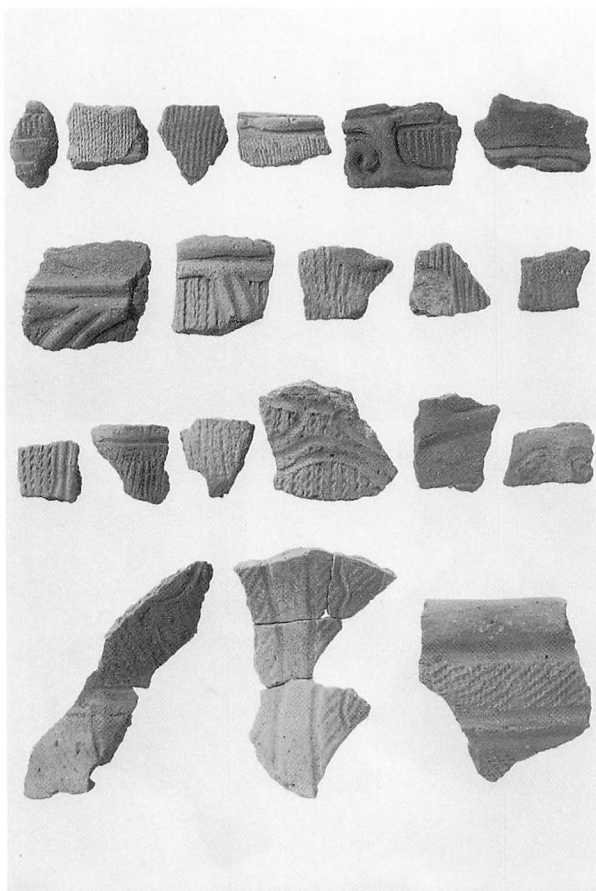
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 4・5)



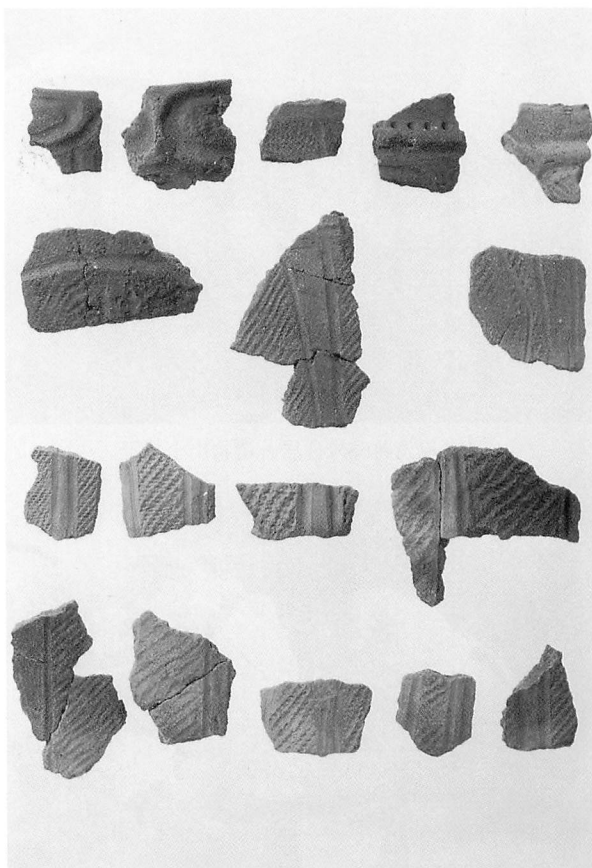
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 6)



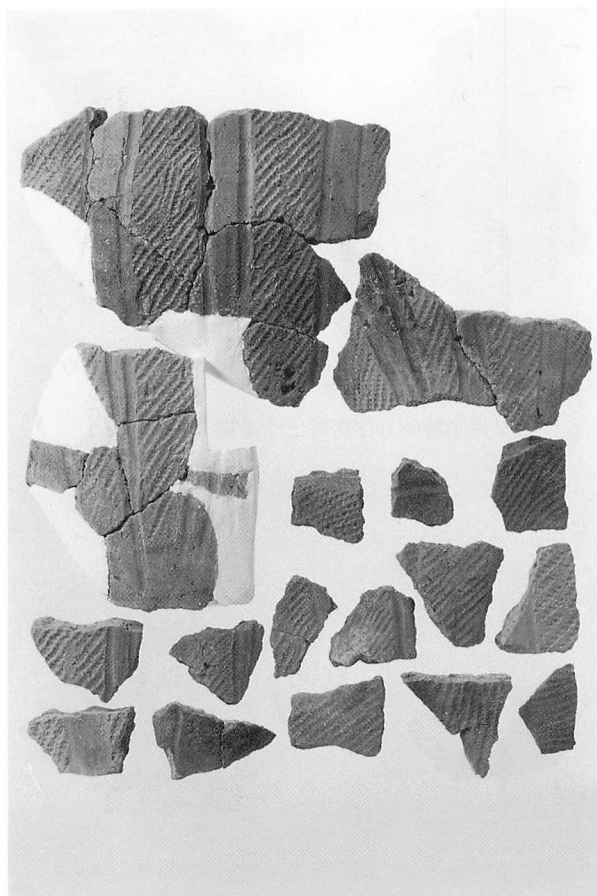
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 7・8)



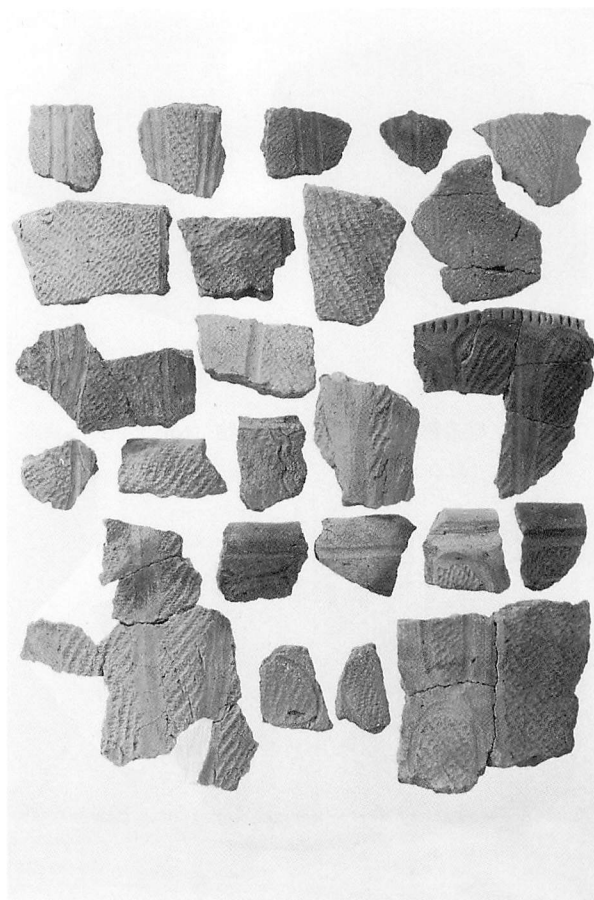
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 9 ~ 28)



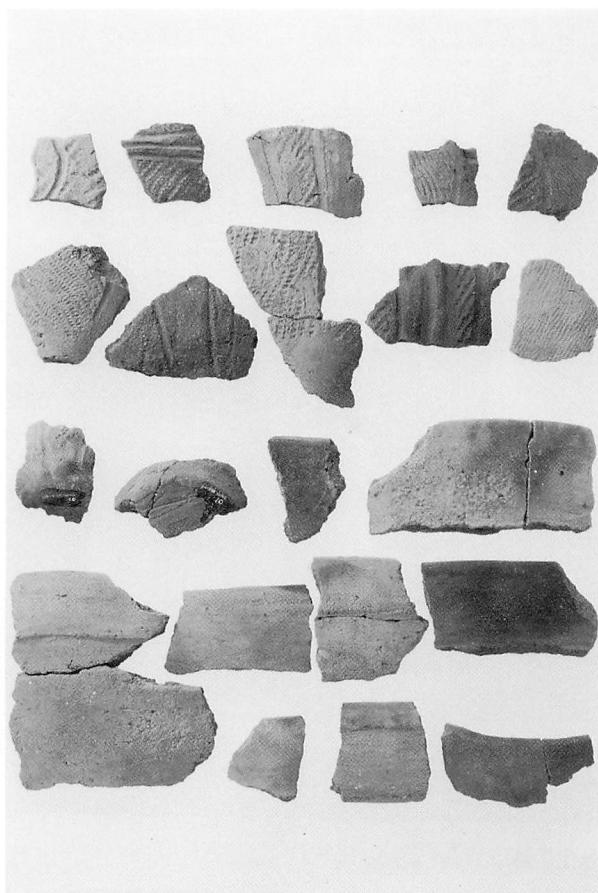
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 29 ~ 45)



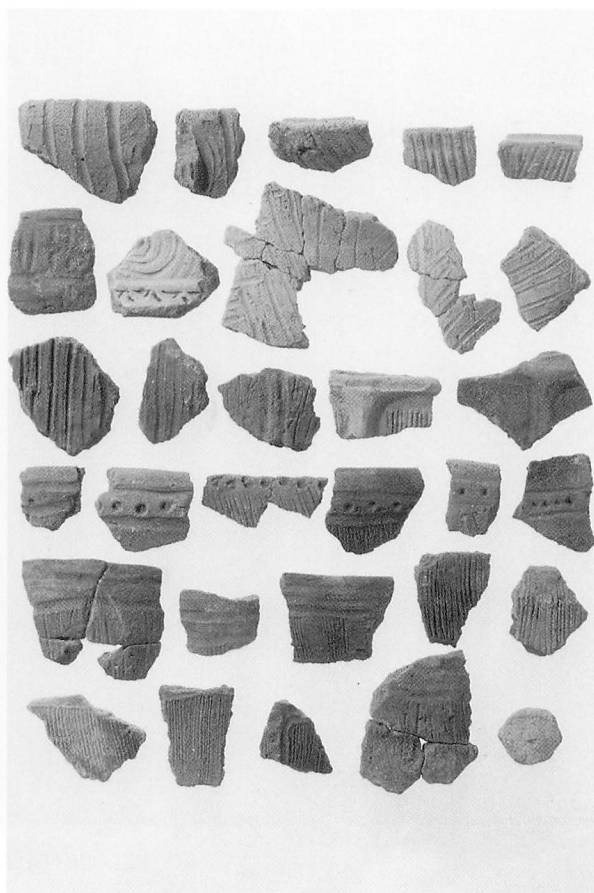
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 46 ~ 62)



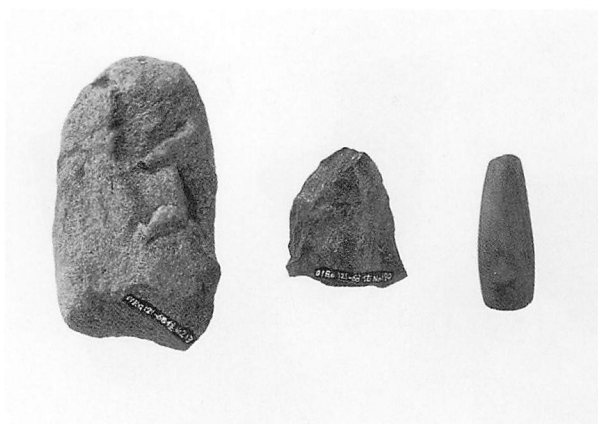
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 63 ~ 86)



西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 87~107)



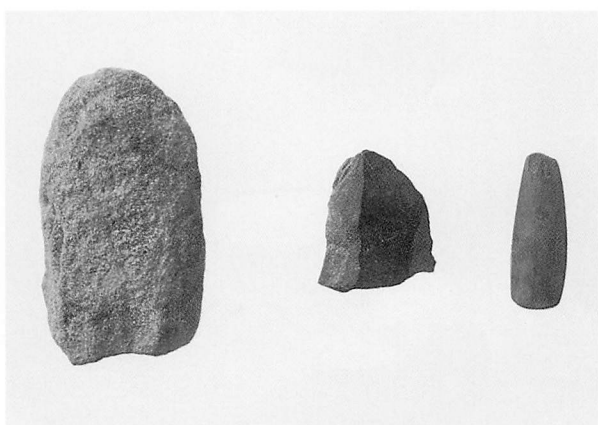
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 108~138)



西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 139~141表)



西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 142表・裏)



西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 139~141裏)



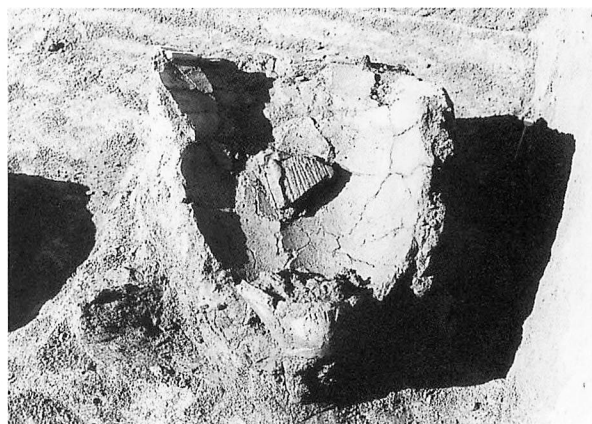
西ノ原遺跡68号住居跡出土遺物 (No. 143表・裏)



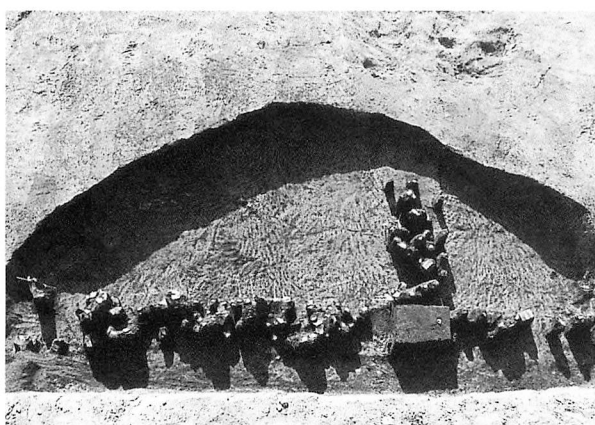
西ノ原遺跡76号住居跡



76号住居跡遺物出土状況



76号住居跡遺物出土状況



76号住居跡遺物出土状況



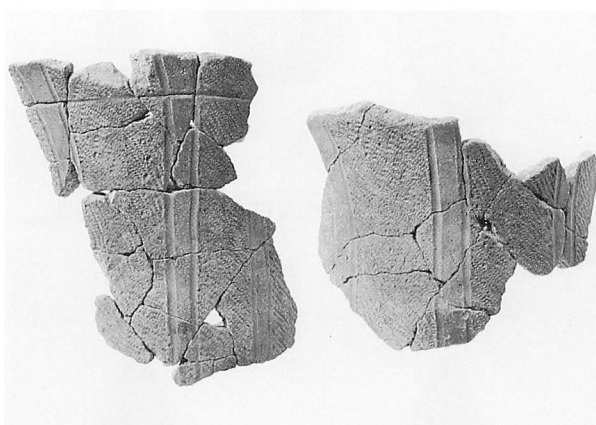
76号住居跡小型磨製石斧出土状況



西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 1 炉体)



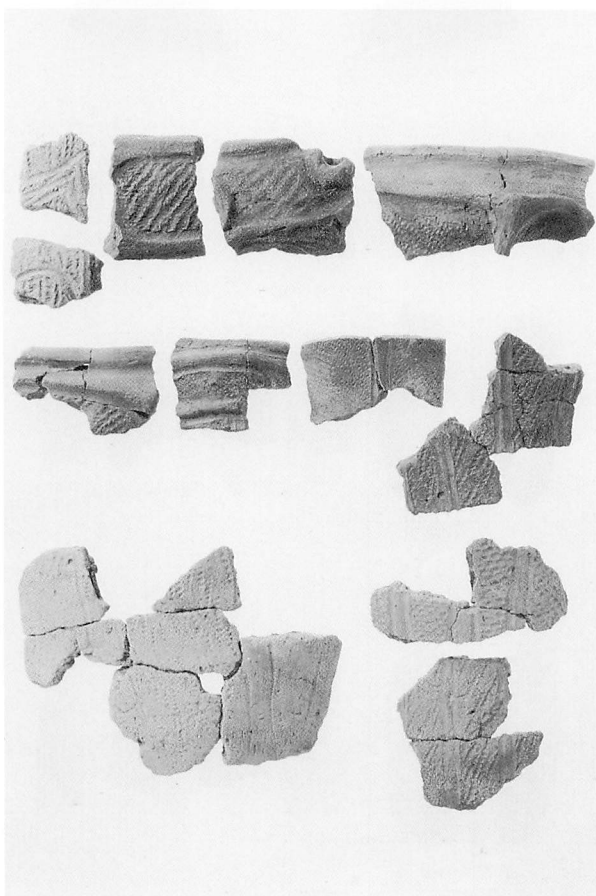
西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 2・3)



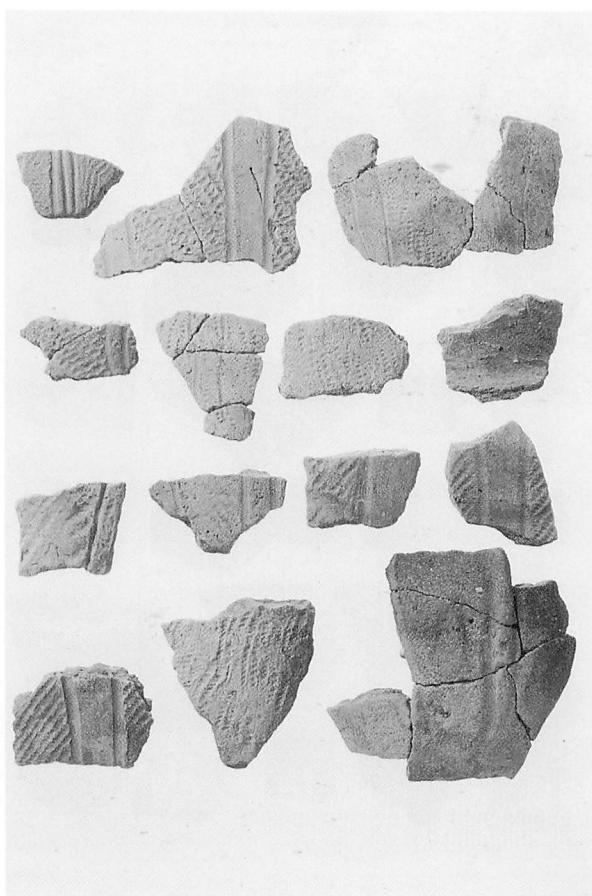
西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 4・5)



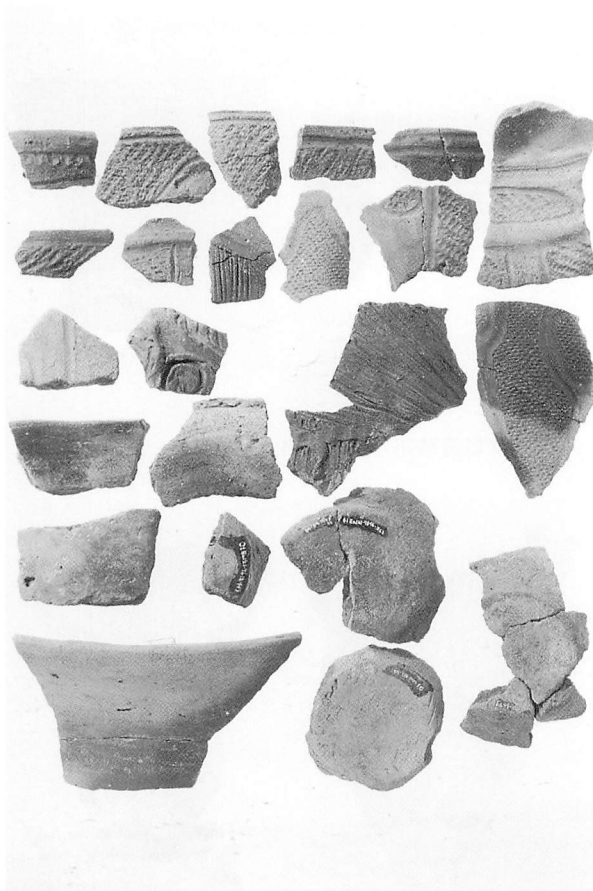
西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 6～8)



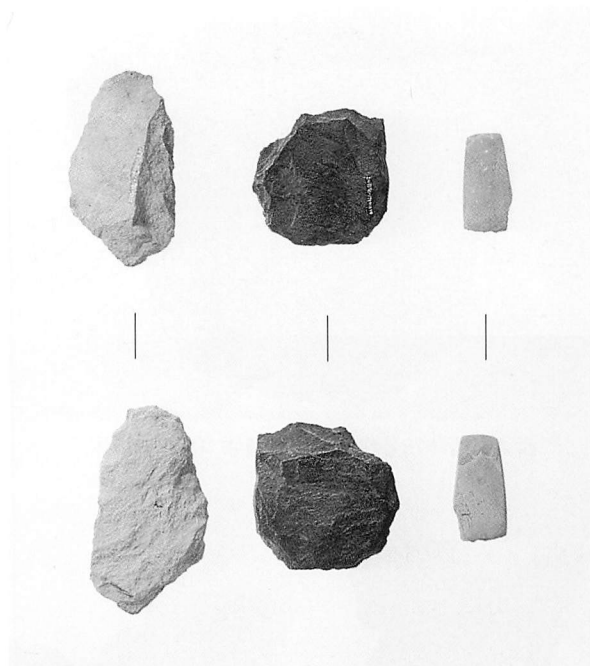
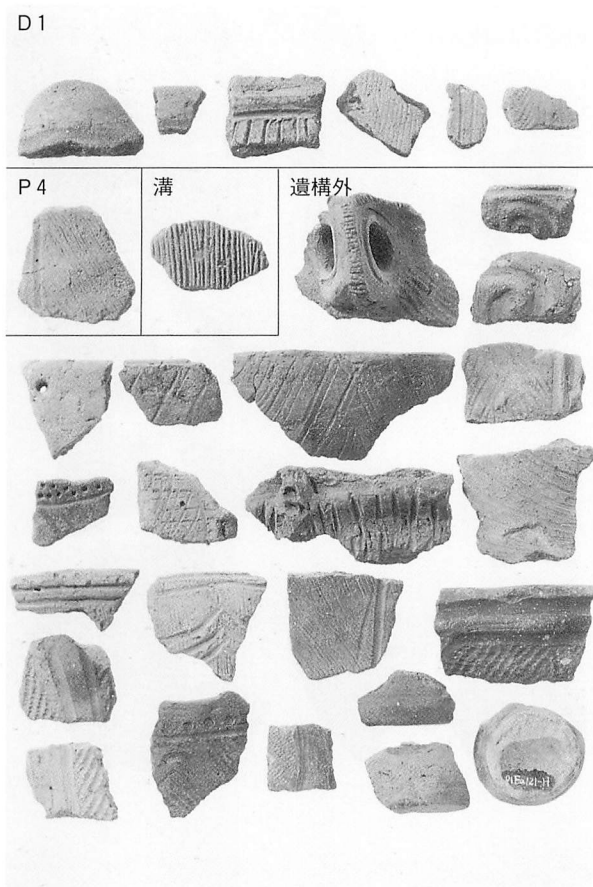
西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 9～20)



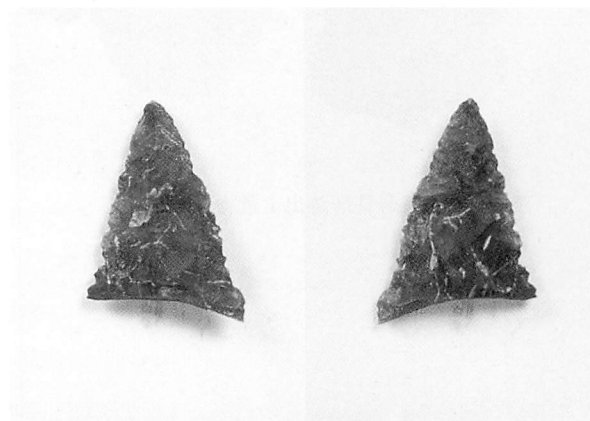
西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 21～34)



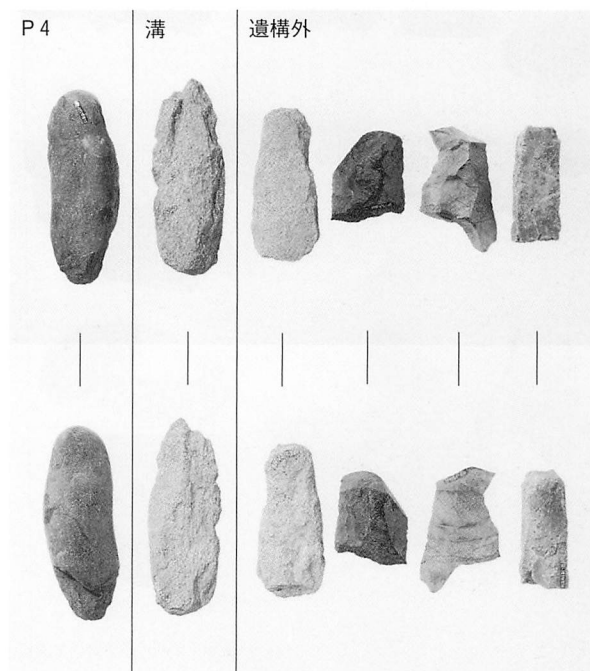
西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 35~57)



西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 58~60表・裏)



西ノ原遺跡76号住居跡出土遺物 (No. 61表・裏)

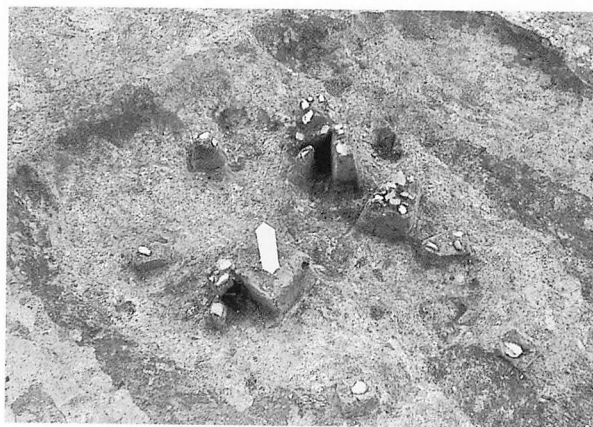


西ノ原遺跡第121地点土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物

西ノ原遺跡第121地点ピット・溝・遺構外出土石器



西ノ原遺跡第121地点土坑 1



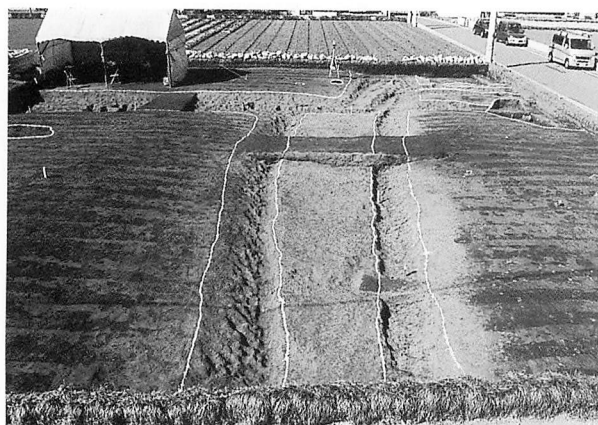
西ノ原遺跡第121地点土坑 2



西ノ原遺跡第121地点溝 1 ~ 4



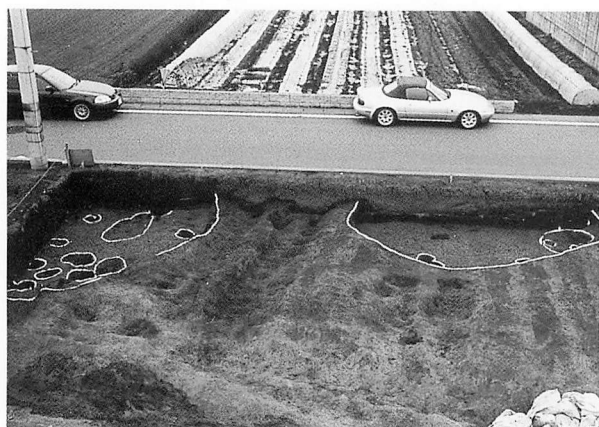
西ノ原遺跡第121地点溝 1



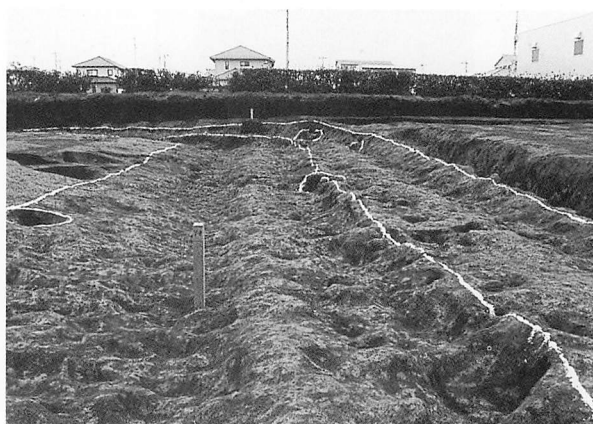
西ノ原遺跡第121地点溝 2・3



西ノ原遺跡第121地点溝 3・4



西ノ原遺跡第121地点東側調査区全景



西ノ原遺跡第121地点西側調査区全景